鍛えぬかれたフォームにこそ、
メカの真髄がある
■ジューキミシンは精密工学の結晶とうたわれる高級品。シャープなスタイリングで、その名を高めています。

ジューキ
東京重機工業株式会社

オリンピック速報

8強入りの悲願成らず

ミュンヘンオリンピックのハンドボール競技は大会第5日の8月30日夜から始まり、まず9月3日までの3日間、ベストエイトを決める予選リーグ（4ケ国づつ4組）が行われた。

D組に出場の日本は、持てる力をいかんなく発揮、悲願の8強入りを目指して大健斗したが、ヨーロッパの壁はいぜん厚く、ユーゴスラビア、ハンガリー戦とも善戦及ばず惜敗、最終戦のアメリカから1勝をあげたが、準決勝リーグ進出の道をたたれ9月6、8日の両日行われる9～12位決定トーナメント（日本、ノルウェー、アイスランド、ポーランド）にまわった。

日本、互角の戦況つづかず

第1戦・ユーゴスラビア（世界選手権3位）との試合は8月30日午後7時＝日本時間31日午前3時からミュンヘン市外約170キロはなれたギョッピゲン・スポーツホールで行われた。

ユーゴ 20（11―7、9―7）14 日本

＜日本の得点＞野田4、木野3、近森、有永、飯田各2、中井1。

〇……日本は開始直後野田の7MTで先行、すぐに追いつかれたものの3―3まで互角の戦況だった。しかし平均身長185cmのユーゴはラブルニクらのジャンプシュートで点差を開き、後半にはホルバトを要とした多彩な攻撃で追いすがる日本を振り切った。

立ちあがりの失点ひびく

第2戦・ハンガリー（世界選手権8位）との試合は9月1日午後8時15分＝日本時間2日午前4時15分からミュンヘン市外約260キロはなれたボブリンゲン・総合体育館で行われた。

ハンガリー 20（10―7、10―5）12 日本

＜日本の得点＞近森、木野各3、野田、中井各2、有永、氷海各1

〇……日本は立ちあがり守りが固まらずそのスキをつかれて8分4―0とされた。10分をすぎてからようやく攻守とも本調子となり後半12分9―12と追いあげたが、終盤は再びハンガリーディフェンスの高いブロックに得点を阻まれ点差を詰められなかった。

アメリカから1勝とる

第3戦（予選リーグ最終戦）・アメリカ（アメリカ大陸代表）との試合は9月3日午後9時15分＝日本時間4日午前5時15分からミュンヘン市外約70キロはなれたアウグスブルグ・スポーツホールで行われた。

日本 20（9―9、11―7）16 アメリカ

＜日本の得点＞飯田7、野田4、近森3、木野、中井各2、氷海、有永各1

〇……日本は立ちあがり1―4とリードされたがどうにか逆転してもすぐに追いつかれる拙い試合運びだった。後半、ようやく野田を軸としたスカイプレーなどで連続5得点、大勢を決めた。力の差ははっきりしていたが日本は無用の力みすぎで苦戦した。

◆D組その他の結果

ハンガリー 28（16―8、12―7）15 アメリカ

ユーゴ 25（11―9、14―6）15 アメリカ

ユーゴ 18（9―8、9―8）16 ハンガリー

日本代表チーム

コーチ兼FP	近森　克彦	（大崎電気）
主　将（FP）	木野　実	（湧永薬品）
G　K	下里　敏彦	（大崎電気）
	本田　洋	（大阪イーグルス）
F　P	飯田　誠行	（大崎電気）
	野田　清	（大同製鋼）
	早川　清孝	（湧永薬品）
	有永　修二	（東京海上火災）
	中井　武三	（大同製鋼）
	新実　俊夫	（本田技研）
	氷海　正行	（千葉教員）
	佐々木健一	（中　大）
補助役員（FP登録）	竹野　奉昭	
オリンピック対策部長	村田　弘	

「女子」の実施を決定

IOC総会

8月25日付で各報道機関が伝えるところによるとミュンヘンで開かれていた第73回国際オリンピック委員会（IOC）総会は25日の会議で新たに女子ハンドボールをオリンピック種目に追加することを決めた、という。参加国数男女合わせて18チーム以内が条件。

国際ハンドボール連盟（IHF）は、かつて女子の実施で男子参加国数が減るのに反対したことがありIOC総会の今回の決定をどう受けとめるか注目される。

「ハンドボール」9月号（第101号）目次

【表紙写真】全日本高校選手権女子表彰式・感激の深谷女セブン。（8月7日山形県東根市）＝共同通信社提供＝

斯界宿願の入場行進（開会式）

ミュンヘン・オリンピック開幕

第20回オリンピック大会は8月26日西ドイツ・バイエルン州の主都ミュンヘンで16日間に亘る華やかな幕をあけた。

一九三六年（昭11）のベルリン大会以来36年ぶりに実施されるハンドボールは、今大会でもっとも関心を集めている競技の一つ。ハンドボールの盛んなヨーロッパ、しかも発祥地西ドイツでの開催とあって15万枚（全期間）近い入場券をほとんど売りつくすという人気である。

8月26日午後3時（日本時間同日午後11時）からオリンピック・スタディアムで行われた開会式には、わが日本ハンドボール代表チーム12名も日本選手団に初めて加わり堂々の入場行進を行い、斯界35年目の宿願を果たす貴重な〝球史〟を刻みこんだ。

注目の予選リーグの成績は1頁速報のとおりだが、出発までのフィルムを逆まわしして、日本代表チームの表情を集めてみた。

≪JOC結団式≫皇太子御夫妻をお迎えして日本選手団219人が深紅のブレザーコートで勢揃い。こうした〝儀式〟に初参加のハンドボール代表は注目の的、12選手もいささか緊張気味だったが、近森コーチ兼選手による選手紹介は各競技を通じてこの日いちばんのでき、と好評をはくした。（8月14日、岸記念体育会館講堂）

≪出発≫日本選手団の出発は二手に分かれ、ハンドボールチームは8月17日午後9時30分発の第2陣（8競技144人）。

7時すぎから羽田国際空港ロビーには選手の関係者がぞくぞくと詰めかけ身知らぬ女学生から各選手にお守りが渡されたり花束が贈られるなど華やかな雰囲気、ただ一人の学生佐々木選手が名前入りの小旗をもった小さな子供たちの〝激励〟をうけ照れている風景が微笑を誘った。

乗りこみを前に徳永副会長の音頭であげた万才の声はどのパーティよりも大きく、威勢がよかった

≪激励壮行試合≫7月中旬から出発直前までつづけられていた強化合宿（東京、郡山、仙台）のあいまをぬって各地で激励試合が行われ代表チームはまずまずの仕上りを見せた。

▽第1戦（8月7日・徳山市立体育館）
オリンピック代表 35（17－2, 18－6）8 全徳山ク

▽第2戦（8月8日・大阪市中央体育館）
オリンピック代表 26（14－8, 12－9）17 湧永薬品大阪イーグルス混成

▽第3戦（8月9日・立命館大衣笠体育館）
オリンピック代表 34（12－5, 22－4）9 全京都

▼強化試合・第1戦（7月29日・東北工大体育館）
オリンピック代表 40（18－4, 22－5）9 全仙台

▽同・第2戦（8月13日・駒沢体育館）
オリンピック代表 34（14－6, 20－8）14 千葉教員

技術調査委員らも出発 ミュンヘンオリンピックの技術、大会運営視察と日本チームの応援を兼ねた日本協会技術調査委員（自費渡欧）一行は8月24日夜出発した。同委員は次の10氏。

神田清、片瀬喜代次、藤田八郎石切山稔治、森田正英（以上日本協会理事）、山田稔（同監事）、稲石三二（審判部委員）、北川勇喜（技術指導部委員）、狩野幸介、山口毅（以上普及部委員）

このほか、日本オリンピック委員会（JOC）調査団に加った田村正衛会長、西敏郎副会長、荒川清美理事長らは8月24日夜渡欧（自費）、一般公募した「ミュンヘンオリンピックハンドボールツアー」も8月25日夜羽田を発った。

9月23日、大阪で帰国報告試合

日本協会はオリンピック代表チームの「帰国報告試合」を9月23日午後1時40分から大阪・市中央体育館で大阪選抜との間に行うことを決め、発表した。

同試合は毎日放送（MBS・TV）の「土曜ワイドスポーツ9月第4週」として制作、MBS系の全国ネットで午後2時から実況中継される予定。〔当日は0時30分から前座2試合〕

なお、代表チームは9月13日午後4時羽田着の日航特別機で帰国、14日のJOC解団式（体協）に臨むことになっている。

普及活動、組織的推進へ　日本協会

理想は「公認指導員（仮称）」制度

ミュンヘンオリンピック後の最大施策ともいうべき、普及・底辺拡大対策について日本協会ではかねてから検討を進めていたが、日本体育協会普及部がこのほど積極的なスポーツ指導者の養成案を打ち出したことから、一気に具体的な構想へ着手、組織的な活動を推進することになり、7月22日の月例常務理事会では日体協の「スポーツ指導員養成講習会機構」を中心に協議、次回で日本協会としての大筋をまとめあげるよう申し合わせた。

普及対策について日本協会は毎年重点施策にあげながら「どのような指導者を養成し、どのようにハンドボールを指導（普及）させるか」という肝心な点がぼかされたままであった。

日体協の乗り出しを機に、まずこの面での〝結論〟を急ぐ意向で早ければ今秋の全国会議（評議員会、理事会）に原案が示されることになろう。

▽

この数年、斯界はオリンピック対策を最重点に過して来たため普及活動については完全に各スポーツと比べ立ち遅れている。

散発的には、かつてスポーツ（ハンドボール）少年団の全国集会などが試みられたが、恒例事業として定着せぬまま消えてしまった。

ある理事は「普及の重大さは充分判るのだが、どうしても頂点強化ー競技力向上に役員の関心が集中してしまう」と地味な活動があとまわしになっていることを認めている。

普及活動にたずさわるには人一倍の情熱が必要であり、現実の問題としてそれだけのエネルギーのある人はほとんど〝選手育成〟に力を注いでしまっている。またOBと呼ばれる人たちが進むケースとしては審判分野が圧倒的に多い

そこで考えられるのは日本協会が「ハンドボール指導員」（仮称）の公認制度を確立し、この面での人材の養成、発掘を心がけることだろう。すでに普及部担当の渡辺(慶)常務理事は「指導員」について青写真をもっているとも伝えられるが、現在、審判部が採用しているライセンスシステムを模倣すれば、比較的短時日に軌道へのるのではなかろうか。いうまでもないことだが普及活動を推進させるには、初期段階では頂点強化を上廻る予算の裏付けが必要だ。この点の理解がなければ斯界の〝普及対策〟は永久に空念仏に終ってしまうだろう。

（X）

11月下旬、発表へ

男子ナショナルB（仮称）

本誌99号既報の男子ジュニアナショナル（全日本B）編成について担当の技術指導部はこのほど具体的な活動を開始、同部全委員に対し選手の選考を委嘱した。

これにより委員は各種全国大会、地方大会で22才未満の有能選手を〝観察〟し、本部へ推せんすることになる。選手の発表は全日本学生選手権（11月13〜17日・大阪）終了後で約20名の予定。

なお、技術指導部内ではこのチームを「ヤング・ナショナル」と呼称している。最初の強化合宿は来春1〜2月の4日間東京で行われる。

世界学生には不参加

全日本学連は今冬スウェーデンで行われる第5回世界学生選手権について検討していたが経費、準備期間が短かいことなどで参加を見合すことに決めた。

総チーム数一六八二

高校男子七百を突破

日本協会はこのほど今年度の登録チーム数を次のように発表した。

▽総数一六八二（内訳＝一般三三八、学生一〇六、高校一二三八）。前年比五九チーム増（内訳＝一般九減、学生七減、高校七五増）

◇

大幅な登録料の値上げで今年のチーム数には関心が集っていたのだが、一般（教員を含む）のチーム減はわずかに9。300を割るのではないかという危惧さえあっただけに協会首脳陣をホッとさせた。底辺の理解と協力に活動面でどう応えるか、今後の事業に注目したい。

高校界が一気に75校を加え、特に男子は742校と初めて700台にのせた。高体連関係者の情熱に敬意を表したい。なお登録総競技者数は延べ二万八千。

競技力向上費（体協）減額

日本体育協会の各競技団体に対する今年度の交付金がこのほど内示され、日本ハンドボール協会に対する競技力向上費は前年より約30万円減の166万円（年額）、スポーツ振興金は前年と同じ60万円（同）である。日本協会では10月までに一般予算を組みなおす予定だ。

宮崎理事が辞任　日本協会常務理事の宮崎慎六氏（早大出＝会長推せん）は7月22日付で勤務多忙のため理事辞任を届出、受理された。後任については現スタッフの任期が7ケ月足らずのため補充されない模様。

高体連常任委変更　高体連役員のうち3ブロックの選出常任委員が次の3氏に変更された。
▽北信越（徳前啓人）▽四国（前田誠之助）▽九州（日野博）

東京協会理事長代わる　東京協会は理事長の中沢重夫氏（日本協会常務理事）が全日本学連理事長に専念するため、後任に岡村昭二氏（東京教大出・日本協会理事）を決めた。

福岡協会新役員　福岡協会ではこのほど新役員を次のように決め発表した。
▽会長　関　和虎▽副会長　小袋是郎、瀬尾秀己▽理事長　岡井幸由▽常任理事　日野博、清川守嗣今村孝一、野村良水、近藤正行、田中治夫▽事務局　北九州市白萩町6番1号・小倉工高気付

お礼

オリンピック代表チームの壮途にあたり、全国各地の協会、関係者、ファンの皆さまから御ていねいな祝電を賜りました。厚く御礼申しあげます。

日本ハンドボール協会

初の全国中学生大会開く

優勝は東港（男子）と福泉南（女子）

内外の期待を集めた第1回全国中学生ハンドボール大会（日本ハンドボール協会、全国中学校体育連盟主催）は8月17日から19日までの3日間名古屋市郊外の愛知青少年公園球技場でにぎやかに行われた。

オリンピック参加と並ぶ斯界今年度の最大事業とあってその成果は大いに注目されたが、夏の太陽のもとで、全国各地域から集った男子10校、女子9校218名の少年たちは力いっぱいの試合を展開、コートサイドに新たな感動を呼びおこし、来年の再会を約しながら成功裡にその幕を閉じた。

本誌では参加各校の指導者に今大会の印象、今後への助言をアンケート、伸びゆく中学生大会の資料とすることにした。

なお、記念すべき第1回大会の優勝は、男子は愛知代表の名古屋市立東港中学、女子は近畿代表の堺市立福泉南中学と決まった。

（アンケートの掲載は到着順・敬称略）

【質　問　項　目】

①今大会もっともよかった点
②来年以降へのアドバイス
③中学校指導者として日本ハンドボール協会に望むこと

加納中学（岐阜）
後藤左右吉

① イ、ともかく〝第1回〟が開けたこと。
ロ、地元及び関係者の非常な努力があったこと。
ハ、全国のレベルを大まかにつかむことができたこと。

② 日程が厳しすぎた。調査などが多すぎて追われっぱなしの感じが強かった。宿の規律もややきゅうくつすぎ、もう少しゆとりのある日程、宿舎にしたい（経費の関係でやむを得ない点もあろうが）

大会日程は2日間は全チーム、3日目は勝者のみということにして「3日間」を考えたらどうか。

③ 日本協会は率直に云って政治力というか、ジャーナリズムを動かす力が弱いと思う。ミュンヘン参加を機にPR活動を通してもっと地域へ広く深く浸透する努力をして欲しい。中学校の底辺を拡げなければハンドボールの隆盛はあり得まい。現場は指導者不足に悩んでいる。

香川大附属高松中学
佐々木弘之

①宿泊設備と大会運営
②練習場所と練習時間の割りふりに検討を。開催地は来年度も名古屋で引き受けて欲しい。
③ハンドボール底辺の拡大。ミュンヘンオリンピックのハンドボール競技映画の作成と、そのプリントを各県協会へ渡しハンドボールへの関心高揚をはかる。

丸内中学（石川）
畔地　勇次

①宿泊費の日本協会全額負担。大会地の環境のよさ。
②審判員のジャッジを徹底してもらいたい。大会要項をもっと早く送付して欲しい。
③初心者、初歩指導者向の講習会を開くべきだ。

二瀬中学（福島）
田中　誠

①場所（開催地）、宿泊所、試合場練習場などはまずまずだと思ったが考慮すべき点がないとは云えない。宿泊費の日本協会全額負担はよかった。
②競技場の連絡とか、時間の制限が厳しくミーティング、体調を整えるための時間的余裕を得られるように改善して欲しい。隣接したコートを使用する場合ホイッスルの音色に工夫をして欲しい。試合後に「技術指導」が開かれることはいつ決定され、どのような連絡方法をとられたのだろうか、まったく判らない。参加チームをもっと増やしたい。
③日本協会の中学に対する積極的な技術指導を望む。特に東北のように遅れている地方では痛切に感じる。

豊橋南部中学（愛知）
戸田　晴久

①最初の大会としては大成功であったと思う。今回の経験を活かして一回毎に充実させる努力をつづけていって欲しい。
②、③特になし。

香東中学（香川）
（香東ク）
青木　正敏

①全国各地のハンドボールを愛好する少年と友情を深めたこと。
全国中学生のハンドボール技術の水準を知ることができたこと。
②審判規則を選手が再確認し、そ

試　合　記　録

◆男子1回戦（2試合）

釧路北（北海道）18（11−6、7−6）12 香川大附属高松（四国・香川）
熊本マリスト学園（九州・熊本）10（7−3、3−4）7 いわき好間（東北・福島）

▽同準々決勝

名古屋東港（愛知）20（8−0、12−1）1 釧路北
氷見南部（北信越・富山）9（4−1、5−3）4 呉二河（中国・広島）
東陽・福泉南混成（近畿・大阪）19（9−2、10−7）6 熊本マリスト学園
加納（東海・岐阜）15（5−5、10−3）8 水海道（関東・茨城）

▽同準決勝

加納 15（10−3、5−5）8 東陽・福泉南混成
名古屋東港 13（6−4、7−3）7 氷見南部

▽同決勝

名古屋東港 9（3−1、6−3）4 加納

得	【東港】		【加納】	得
0	溝　口	GK	真　田	0
0	伊藤友	GK	井　上	0
0	森　井	FP	森	0
0	村　上	FP	曽　貝	2
0	若　松	FP	安　田	0
3	甚　本	FP	辻	0
0	森	FP	松　野	0
1	中島幸	FP	梅　谷	1
2	大　矢	FP	浅　井	0
1	中島好	FP	北　川	0
2	隠　岐	FP	西　尾	1
0	伊藤公	FP	熊　川	0

（審・石野、長谷川）

9（1）7MT（1）4

□……「大成功！」。大会を参観した日本協会の役員は口々にこう云った。

1年前までは机上論を出なかった中学大会。オリンピックムードに乗って一気に開催へ待ちこんだだけに田村会長や荒川理事長も大会の成果は「実のところ心配だった」という。

荒川理事長などはオリンピック代表の見送り（17日）を投げてまで名古屋へかけつけたほどである。

□……大会をささえたのは、運営の一切をとりしきった西川勤也氏をはじめとする愛知協会の努力もさることながら、やはり参加各校の指導者、選手それに父兄の熱心さがいちばんであろう。

あるベテラン役員は、参加数こそ少いが、23年前全日本高校選手権を初めて開いた時よりも盛りあがったムードを感じた、と話している。

□……環境もよかった。愛知県ご自慢の緑地公園。健康さ、清潔さにあふれ、いかにも中学生の大会にふさわしかった。期せずして、来年も是非ここでという声があがったのもムリはない。

参加校側の理解も初年度にしては高かったようで、遠征旅費も本誌の調査では全額学校またはPTA負担というケースが大半で、父兄の関心もまずまずとみてよい。

大成功だった初大会

□……課題がまったくないわけではない。この大会が〃社会体育〃に進むのか〃学校体育〃なのかは早急に明解な姿勢を打ち出すべきだし、中学校における指導者不足も改めて露わにされた。

大会組織も今回は日本協会普及部が〃責任者〃となっていたが、やはり中学大会専門パートを日本協会内に確立すべきではなかろうか。

□……注目のレベルについては思ったより高かった、というのが定評のようで、男子には高校クラスと折り紙をつけられた選手もいた。

優勝した男子・東港中（愛知）は名古屋協会が力を入れていた小学生大会の出身者が多く、永年の地道な底辺活動の開花といってよい。女子・福泉南中（大阪）も近畿中学校総合体育大会に培れた近畿中学界の〃伝統〃がモノを云ったといえるだろう。

来年以降の大会がますます楽しみになって来た。　（X）

れにのっとった練習と指導。

③中学生向きのハンドボール競技手引き書の刊行。

東陽中学（大阪）　辻川　信孝

①初めての大会に参加できたことと他地区のレベルを知りたいという希望がかなえられた。

生徒同志も他地区の生徒と友だちができたといって喜んでいます

立派な施設で運営から生徒の管理まで行き届いていて大会関係者のかたに感謝いたします。

②近畿地区を例にとると近畿中学校総合体育大会と本大会の日程が調整されていないようで、選手のコンディションのもっていきかたが大変難しい。日程面で中体連との話合いを望む。

本校の場合、今大会が社会体育なのか中体連主催の学校体育なのかその性格があいまいなので困った。（特に経費面で）

③中学に入学して来た1年生のほとんどがハンドボールとはどのようなスポーツかを知らない。その点で部員募集に苦労する。日本協会がマスコミを通じてハンドボールをP・Rして欲しい。

底辺を拡大すれば頂点が高くなると思う。中学生を対称とした技術指導講習会など各県単位で数多く行なって欲しい。

神辺中学（広島）　定藤　守夫

①全国全地域より参加があったこと。試合場、宿泊施設が大へん立派だったこと。開催（運営）計画がよく出来ていたこと。

②年度頭初に年間計画が中体連に了解されて地区予選、県予選と中体連行事が調整できるよう希望。

③国際試合において立派な成績を得られて社会から関心を集めて下さい。ハンドボール人口を増加させる方策を考慮して下さい。

呉二河中学（広島）　茅原　通夫

①宿泊地、競技場の環境がよい場所であったこと。

②来年度からもこのような施設のある県で開催して欲しい。（例えば近くに中学、高校のグランドのあるヘルスセンター、自衛隊の宿舎の利用とか）。

③ハンドボールについては経験が少なく意見を申しあげるほどまだ研究していない。

名古屋東港中学（愛知）　稲葉　寿雄

①会場の設備がよく整っており中学生の大会としては申し分なし。宿泊についても各チーム同一条件でよかつた。

②練習コートがあるとよい。持ち

◆女子1回戦（1試合）

郡山二瀬（東北福島） 5（4－2，1－2）4 高松香東（四国香川）

▽同準々決勝

堺福泉南（近畿大阪） 12（5－4，7－6）10 玉名玉南（九州熊本）

豊橋南（愛知） 8（3－1，5－6）7 小松丸内（北信越石川）

水海道（関東茨城） 20（12－5，8－5）10 神辺（中国広島）

加納（東海岐阜） 7（3－1，4－2）3 郡山二瀬

▽同準決勝

豊橋南 16（5－4，11－4）8 水海道

堺福泉南 8（3－2，5－3）5 加納

▽同決勝

堺福泉南 9（5－1，4－7）8 豊橋南

◆コンソレーション・マッチ

▽男子

香川大付高松 14－11 いわき好間

呉二河 8（分）8 水海道

▽女子

玉名玉南 15－4 高松香東

小松丸内 16－2 神辺

【豊橋】	得	【福泉】	得
浜口	0	松久	0
中川	0	木林	0
山内	0	久保	1
長浜	3	川崎	3
田中	1	安川	0
柴田	2	今津	0
永井	0	大仲	2
青山	2	小倉	2
佐藤	0	山中	0
前沢	0	久保	1
杉野	0	辻本	0
畑中	0	高田	0

GK　FP（審・林、高島）

9（0）7MT（1）8

廻りの優勝旗をつくったらどうか。ローンコートのため練習時と異りとまどいを感じた。
③特になし

氏名無記名

①会場環境が申し分なく中学生の大会にふさわしかった。（次回地の名乗りあげがむずかしくなってしまうだろう）
②高校、大学または一般の有力チームによる模範試合を見せて欲しい。
・全日本教職員選手権と期日が重ならぬようにしてもらえないか
③指導フィルム（入門編）の作成。

第1回 全国中学生大会 参加選手名簿

（数字は身長（cm） ○内数字は得点数）

男子

氷見南部中
～FP～
寺本 170②
飯沼 164
秀水 176⑥
番匠 161④
紺野 160①
橋本 163
瀬戸 152
笠原 157
久津呂 148
西浦 161
～GK～
中野 170
本川 158

水海道中
～FP～
片庭 166.6
岡野 165.0①
辺見 165.3②
堀越 165.0
加倉田 165.0
砂長 168.9⑤
片野 148.3
長岡 167.0
和田 156.5
根本 169.0
～GK～
坂野 161.9
新関 164.5

いわき好間中
～FP～
金成 159.8
菊地 170.6
橘内 176.0②
山尾 167.1
片野 171.7③
遠藤 165.7②
渡辺 154.6
青砥 158.0
安斉 159.1
佐々木 169.1
～GK～
荻野 171.6
木田 160.7

釧路北中
～FP～
高橋 172①
井上 164⑦
神山 170
鈴木 169①
橋本 166③
片脇 171③
西村 167
小原 173
近藤 155④
～GK～
宗形 170
甲賀 171

香川大付高松中
～FP～
八木 164⑤
山本 169
笹木 162
石井 167⑦
松浦 168
渡部 166
大西 165
安岡 158
山下 160
宮西 162
～GK～
大森 165
大川 165

呉二河中
～FP～
中田 163.1
湯月 163.3
川元 161.3
伊藤 170.8②
西田 170.0
山根 156.2①
出射 155.2
香川 156.0
後藤 164.5①
吉中 173.0
～GK～
向井 163.1
横場 160.5

東陽・福泉南中混成
～FP～
星山(東) 172⑦
沖永(東) 171
山中(福) 167③
西上(福) 167
素原(東) 166
北条(福) 164④
穴見(福) 164
新潟(東) 161①
脇(東) 161⑨
平松(東) 160①
～GK～
香川(東) 167
上野(福) 165

岐阜加納中
～FP～
森 160④
曽貝 165④
安田 159
辻 163⑥
松野 158②
梅谷 161④
浅井 157
北川 163
西尾 165①
熊崎 168
～GK～
真田 168
井上 161

名古屋東港中
～FP～
伊藤公 178③
森井 165
村上 160
若松 170
甚本 177⑪
森 178
中島好 178⑦
大矢 168⑩
中島幸 164③
隠岐 170⑧
～GK～
溝口 175
伊藤友 171

女子

豊橋南部中
～FP～
山内 156.2②
長浜 148.3⑩
田中 161.0④
柴田 150.8⑦
永井 156.2②
青山 163.2⑦
佐藤 150.8
前沢 146.5
杉野 146.0
矢島 157.1
～GK～
浜口 154.2
中川 152.3

小松丸内中
～FP～
森田 155.1①
西川 157.1②
住田 153.4①
滝 159.2②
金子葉 157.2①
南 156.9
六反田 158.1
金子真 157.5
吉田 155.6
蔵藤 148.4
～GK～
前口 158.6
酒谷 160.4

水海道中
～FP～
土手内 157.0
松本 150.0⑥
稲吉 158.5①
松崎 160.0⑨
北沢 161.0⑦
石塚 160.0④
程田 150.0
北島 155.0
奥原 157.0
根本 157.0①
～GK～
飯田 153.0
佐々木 152.0

郡山二瀬中
～FP～
吉成 175.0①
塩田 151.4②
安藤知 150.9
円谷 151.7⑤
松本 154.3
須藤 156.7
志村 148.3
佐藤 152.0
落合 156.1
安藤秋 142.8
～GK～
有馬 155.5
清水 158.0

熊本マリスト
～FP～
及川 154③
津崎 164②
下川 168②
前川 160
那須 162⑧
尾方 164③
笠間 153
嘉悦 164①
前田 170
伊形 158
～GK～
遠山 164
山本 163

玉名玉南中
～FP～
平見 149
畑田 164③
田淵 154④
増永 159②
平嶋 152
本田 156
松本 156
西村 159①
日田 143
杉本 154
～GK～
中尾 162
続 162

高松香東中
～FP～
河西 152.0
桑原 150.0①
里 161.0①
佐藤 153.0
柴田 160.0②
長尾 152.0
永江 153.0
穴吹 156.4
吉川 151.0
谷本 159.4
～GK～
久保 162.0
岩井 159.0

神辺中
～FP～
古田 157.5
佐藤 155.2②
河合 162.0
日笠 158.8
三島 157.2②
清水 163.3⑥
藤岡 153.8
吉岡智 154.3
吉岡久 153.5
藤井 153.0
～GK～
武村 160.0
川上 154.7

堺福泉南中
～FP～
久保道 164③
川崎 160④
安川 160⑫
今津 153②
大仲 152③
小倉 155④
山中 151
久保佐 152①
辻本 151
高山 142
～GK～
松久 155
高田 155

岐阜加納中
～FP～
大田 161 ②
下地 160.5 ④
鳥本 158 ①
金岡 165 ③
橋口 153 ②
高橋 165
多田 158
吉田 155
安田 150
金海 163
～GK～
葛西 159
平井 152.5

（注）得点数は本誌調べ。コンソレーションマッチは含まず。

中大附属、宿願の初優勝飾る

～第23回全日本高校選手権～

女子も深谷女が初の栄冠獲得

炎天下に激しくぶつかりあった若い力。第23回全日本高校選手権の栄冠は男・中大附属（東京）、女・深谷女（埼玉）の関東勢が感激の初優勝を飾り、熱狂裡に幕を閉じた――。大会は8月2日から7日までの6日間山形県東根市の東根工高特設グランドに、全国から男子55、女子55校（ともに史上最高）が参加してくりひろげられた。

オリンピック初登場を3週後に控えるとあって次代をめざす躍動は例年以上に高まり好内容の激戦がつづいたが、男子は中大附属が2連勝を目指す湯沢（秋田）の反撃を退けて初優勝。女子は強豪同士の星のつぶしあいから波乱にとみ、結局、深谷女と市邨学園高蔵（愛知）が勝ち残り、深谷女がタイムアップ寸前7MTを決めて初の栄冠に輝やいた。関東地区の男女優勝は第15回大会（明星・栃木女）以来8年ぶり2度目のこと。男子で東京代表の優勝は5年ぶり4度目、女子で埼玉代表の優勝は初めてである。来年度の大会は三重県四日市市で開かれる予定。

男子

有斗、新居浜工など敗退 仙台育英、笠間に快勝

▽1回戦

高島（滋賀）23（10—4、13—9）13 日南工（宮崎）

高島の走り勝ち。日南も良く健闘したが、細かなところでミスがでて、差をつめることができなかった。特にコンビプレーの面で研究の余地がある。

東根工（山形）21（13—4、8—4）8 柏崎（新潟）

好スタートの東根がゴール前でのボール扱い、スピードとも豊かで、速攻を中心に着々加点。柏崎はスカイプレーも試みてはいたがシュートミスが生命とりになった。

天城（岡山）16（2—7、12—7、0—1、2—0）15 川口工（埼玉）

同型のチームの対戦。前半は川口のペース、後半天城はポストプレーが良く決り、追いつき延長戦になり、ここでも天城が良く粘り勝利をものにした。

都島工（大阪）14（9—2、5—3）5 函館有斗（北海道）

長身者を揃えた都島の一線防禦の勝利。特にカットからの速攻が冴えた。

仙台育英（宮城）19（7—2、12—6）8 笠間（茨城）

スタートから仙台のスローペースに笠間ははまり、そのままペースを奪えずにおわった。

伏見工（京都）16（6—3、10—5）8 コザ（沖縄）

コザの善戦をたたえるべきであろうが、コザのあらいプレーは今後の進歩にもさしつかえよう。

小杉（富山）17（10—4、7—3）7 三本松（香川）

小杉の動き、シュートともに三本松に優り、大差をつけて快勝した一戦。

北佐久農（長野）11（4—5、4—3、2—0、1—1）9 早大学院（東京）

両チームともこれといった決め手を欠き、なんとなく延長に入る延長戦前半に良く2点をあげた北佐久が勝った。早大学院には7MT2本のミスが惜しまれる。

横浜一商（神奈川）19（7—4、12—10）14 呉商（広島）

相手ミスを速攻に結びつけた横浜一商のペース。呉はゴール前の今一歩のつめが必要。

加納（岐阜）14（4—2、10—3）5 鰺ヶ沢（青森）

加納はチャンスを多く、自らのミスで失ったが、順当に実力を見せ鰺ヶ沢を破った。

小倉西（福岡）27（13—3、14—5）8 清水（千葉）

攻守ともに優る小倉の強さがめだった試合。清水の最後までの健闘は賞されよう。

麻生（茨城）20（13—4、7—9）13 添上（奈良）

速攻を武器とする両チーム。麻生が滑り出しよく前半の優位を生かし圧勝。

済々黌（熊本）20（6—3、14—8）11 倉吉工（鳥取）

速攻を良く点に結びついた済々黌の順当な勝利。倉吉に決定力がなかったのは惜しまれる。

大石田（山形）11（7—4、4—3）7 羽水（福井）

大石田は滑り出し良く7MTで2得点をあげ、そのままの優位を保った。

隼人工（鹿児島）21（2—4、10—5）9 新居浜工（愛媛）

高校生らしく基本に忠実に走り守った隼人の勝利。新居浜は策に

おぼれた感がある。

武庫工（兵庫）23（10－2、13－5）7 秋田南（秋田）

攻守に一日の長のある武庫は単純なセットプレーではあるが着々加点し、大勝。

下関中央工（山口）13（6－1、7－8）9 佐野工（大阪）

佐野にとっては前半の守りの甘さがくやまれよう。後半良く追ったが、及ばなかった。

和歌山商（和歌山）14（9－11、5－1）12 立野（神奈川）

走りの立野、セットの和歌山の対戦。両チームともミスが多かったが、GKに一日の長のあった和歌山が勝利を得た。

岐山（岐阜）19（10－3、9－8）11 浜田水産（島根）

浜田のプレーの単調さをつき、岐山は速攻によって加点。浜田の真摯なプレーは好感をよんだ。

清水商（静岡）28（12－8、16－7）15 前橋工（群馬）

前半は好ゲーム。後半はスタミナの差が出、清商の速攻が大きくものをいった。

中大付属（東京）22（10－8、12－4）12 鶴崎工（大分）

前半は互格、後半は中大の速攻ロングともにさえ、大差がついてしまった。

国学院栃木（栃木）15（6－7、9－3）10 県立工（石川）

一進一退の好ゲーム。後半18分に逆転に成功した杉本はその後たたみかけ勝利を握った。

歴代優勝校

	男子	女子
①昭25	足　利（栃木）	操　山（岡山）
②	桜　台（愛知）	青　陵（岡山）
③	桐生工（群馬）	寝屋川（大阪）
④	桜　台	明　善（福岡）
⑤	桜　台	寝屋川
⑥	桜　台	明　善
⑦	桜　台	寝屋川
⑧	桜　台	水海道二（茨城）
⑨	清水商（静岡）	熊本市立（熊本） 寝屋川
⑩	中京商（愛知）	熊本市立
⑪	中京商	熊本市立
⑫	中京商	半　田（愛知）
⑬	桜　台	静岡城北（静岡）
⑭	桜　台	静岡城北
⑮	明　星（東京）	栃木女（栃木）
⑯	桜　台	静岡城北
⑰	明　星	秋田和洋女（秋田）
⑱	明　星	花巻南（岩手）
⑲	下関中央工（山口）	菊池農（熊本）
⑳	下関中央工	新居浜商（愛媛）
㉑	新居浜工（愛媛）	水海道二
㉒	湯　沢（秋田）	山陽女（広島）
㉓	中大付属（東京）	深谷女（埼玉）

聖光学院（福島）24（10－3、14－6）9 徳島東工（徳島）

聖光は徳島の甘い守備をつき、加点し試合をものにした。両チームともはつらつとしたプレーがほしい。

湯沢、高島に抽せん勝ち
小倉西、桜台をかわす

▽2回戦

湯沢（秋田・前年優勝）7（3－3、4－4、0－0、0－0）7 高島

※抽せんで湯沢高の勝ち

スタートの湯沢の優位を高島良くおいかけ、後半は一進一退。湯沢はGKの好守がものを言い、抽せん勝ちを握った。

高島は良く動き、堂々と四つに組んで渡りあったが、今一つの決定力を欠き、惜しい試合を逸ってしまった。

東根工 22（11－3、11－6）9 高知西（高知）

東根は速攻につぐ速攻で加点。高知はフォーメーションを東根によまれ、いいところがなかった。

都島工 24（12－5、12－4）9 天城

試合経験の差が大きく試合を左右。都島は自己のペースを確立し終始優位にたった。

仙台育英 13（4－1、9－3）4 四日市工（三重）

四日市は仙台の守備が崩せずに破れた。育英にはシュートの確実さを望みたい。

伏見工 33（18－4、15－7）11 佐賀農（佐賀）

伏見工はFPの全員が得点という快記録によって、大勝した。佐賀に良いところはなかった。

横浜一商 15（6－6、9－5）11 小杉

小杉はロングにこだわりすぎ、速攻の横浜に後半離された。両チームとも7MTに一考を要そう。

加納 8（3－4、5－3）7 北佐久農

後半良く自己のペースで戦った加納の勝利。北佐久は後半12分以後得点がないのが痛い。

麻生 19（10－5、9－5）10 名南工（愛知）

麻生の速いペースに名南がふりまわされて一方的な試合となってしまった。

小倉西 13（6－5、5－6、0－0、2－1）12 桜台（愛知）

やや荒れ気味ではあったが、一進一退の好試合。桜台が追いかける形で終始。小倉は第一延長終了間ぎわの7MTを良く決め、勝利を得た。

大石田 11（7－4、4－6）10 済々黌

終了5秒前、大石田が速攻を決めた。済々黌のノーマークのミスが痛かった。

隼人工 15（7－3、8－5）8 武庫工

隼人は速攻とロングで快調に攻め、そのままのペースで押しきった。

下関中央工 18（10－1、8－4）5 塩山商（山梨）

塩山は下関の守備を攻めあぐみ速攻を出されて、一方的な得点結果になってしまった。

和歌山商 14（5－4、9－5）9 盛岡一（岩手）

それぞれの持味を生かして前半終了。和歌山は冷静にプレーをし試合の主導権を握りつづけた。

清水商 15（6－2、9－5）7 岐山

岐山のミスを良くついた清商が終始優位にたち、大差をつけてしまった。

中大付属 15（8－1、7－5）6 国学院栃木

スタートから自己のペースで試合を進めた中大は、そのまま押しきった。

佐世保北（長崎）12（8－2、4－4）6 聖光学院工

前半の佐世保の守備の勝利。聖光は終始攻めが単調であった。そこに差がある。

都島工、仙台育英破る
下関中央工らベスト8に

▽3回戦

湯沢 12（7－4、5－6）10 東根工

湯沢は2回戦の不調を脱し、見違えるばかりのスピードで東根を圧倒し前半を終了。後半東根は良

く追ったが1点にするのが精いっぱいであった。好ゲームであり、地元の声援にこたえた。

麻　生 15（8－7、7－4）11 大石田

スタートから両チームとも良い動きを見せ好ゲームを展開した。しかし、後半10分頃から、大石田に疲労の色が濃く、ここを麻生につけこまれた。体力差が勝敗を分けたといえよう。

下関中央工 14（6－8、8－4）12 隼人工

前半は隼人ペース。後半7分に下関はタイに追いつき、その後一進一退を続けたが、後半大島が良く生かされ、そのシュート力によってふりきった。得点の割には中味のない試合だった。

都島工 15（7－5、8－8）13 仙台育英

前半は1点を争う好ゲーム。都島は前半終了間ぎわ1点を追加し2点差とした。後半開始後も都島は快調に得点を重ね、一時は6点差をつけた。育英は懸命に追いこんだが遅かった。

伏見工 20（11－3、9－9）12 横浜一商

伏見は能波にボールを集め、一商の一線防禦の前からロングをとばし優位にたった。後半一商もたち直ったが、伏見の確実なペースを崩すところまでには至らなかった。

清水商 17（9－3、8－7）10 県和歌山商

攻守のバランスのとれた清商の順当勝ち。立ちあがりは和商の健闘に苦しんだが、前半15分から7点を連取して、つきはなした。ただ清商のシュートの雑さが気になる試合であった。

中大付属 17（7－4、10－6）10 佐世保北

中大のフリースローからの得点が大きくものを云い、前半をリード。後半佐世保はフリースロー封じにはやや成功したが、攻めが単調になり、善戦ではあったが、及ばなかった。

小倉西 17（12－4、5－9）13 加　納

スタート後、12分までに小倉西はカット－速攻で6－0とする。加納は小倉を攻めあぐみ、前半は小倉のペース。後半10分すぎから加納はようやく自己のペースで試合をしたが及ばなかった。

麻生、下関中央工制す

清水商、中大付に惜敗

▽準々決勝

中大付属 14（5－5、9－7）12 清水商

	【清商】	得	【中大】	得
GK	山梨	0	松下	0
GK	窪田	0	西川	0
FP	渡辺	1	蒲生	10
FP	梅林	4	佐藤	1
FP	田代	1	大林	1
FP	柴功	4	竹内	0
FP	縄巻	0	安	1
FP	田中	1	坪子	1
FP	遠藤	1	森	0
FP	近沢	0	浦野	0
FP	岸山	0	石川	0
FP	山田	0	林	0

（審・斎藤　徳前）

14（3）7MT（3）12

前半は清商は正確なチームプレーで得点、守っても蒲生のフリースローを良くマークし、互格の戦いぶり、後半に入り、両チームとも動きが悪くなったが、フリースローに絶対の決め手をもつ中大が蒲生の個人のシュート力をフルに発揮させ、勝利を得た。両チームともハンドボールの生命・走りを忘れていた。

湯　沢 9（2－4、7－4）8 都島工

	【都島】	得	【湯沢】	得
GK	木村	0	小松	0
GK	阪井	0	佐々木	0
FP	石倉	0	藤原	0
FP	高橋	5	佐藤	4
FP	荒木	0	麻生	1
FP	石黒	0	半田	3
FP	吉田	0	高橋	0
FP	金田	3	古関	0
FP	竹内	0	菊子	1
FP	谷口	0	内藤	0
FP	成沢	0	高山	0
FP	田中	0	由利	0

（審・日野　清川）

9（3）7MT（2）8

前半はスローペース。動きに優る都島が優位に試合を進めた。湯沢はロングに頼りすぎた。後半に入ると湯沢はサウスポー佐藤を有効に使い、3分同点、7分逆転と得点をし、試合の主導権を奪い返し、そのまま押しきることに成功した。

麻　生 15（7－9、8－5）14 下関中央工

	【下関】	得	【麻生】	得
GK	百々	0	浅野	0
GK	小林	0	生井沢	0
FP	真崎	1	大友	1
FP	飯山	0	仲田	3
FP	大島	6	小嶋	2
FP	秋田	2	高寺	6
FP	勝本	1	金田	1
FP	間下	3	額賀	2
FP	金子	1	小倉	0
FP	三原	0	田山	0
FP	池田	0	鮫島	0
FP	東	0	金塚	0

（審・森　大塚）

15（0）7MT（1）14

前半は下関のオープンからの多彩な攻撃が良く生きて、2点のリード。後半麻生は激しいパスワークから3分に同点にし、その後シーソーゲームをくり返した。一時は下関が再び2点リードしたが、残りの2分間に体力を生かして3点をもぎとった。

小倉西 23（12－6、11－4）10 伏見工

	【伏見】	得	【小倉】	得
GK	中野	0	山本	0
GK	松本	0	今本	0
FP	能波	2	桜木	1
FP	遠藤	0	山中	4
FP	岡本	2	坂本	1
FP	金田	1	上野	7
FP	阪本	5	中村一	2
FP	上田	0	辻	5
FP	内藤	0	中村吉	1
FP	西ヶ花	0	浜口	2
FP	松井	0	奥野	0
FP	石田	0	岡村	0

23（2）7MT（2）10

小倉西は攻めては伏見の甘さをつき、多彩な攻撃で着々加点。守っては伏見のエース能波のシュートを良く押え、ほとんど得点を与えなかった。このペースが一試合続き、大差となった。小倉のチームバランスの好さが眼についた。

湯沢、後半に小倉制す

▽準決勝

湯　沢 10（3－3、7－5）8 小倉西

	【小倉】	得	【湯沢】	得
GK	山本	0	小松	0
GK	今本	0	佐々木	0
FP	桜木	0	藤原	0
FP	山中	1	佐藤	5
FP	坂本	0	麻生	0
FP	上野	1	半田	3
FP	中村一	0	高橋	0
FP	辻	5	古関	2
FP	中村吉	1	菊子	0
FP	浜口	0	内藤	0
FP	奥野	0	高山	0
FP	岡村	0	由利	0

（審・望月　東）

10（2）7MT（1）8

スタート両チームとも堅くなり勢い荒いゲーム運びとなった。その結果、前半は両チームとも得点は少なかった。

後半湯沢は7MTと古関のシュートで2点差としたが小倉も辻のシュートで同点、更に中村吉の7MTで逆転、それを再び湯沢が佐藤の連続得点でひっくりかえすという一進一退の試合となったが、湯沢がゴールキーパーの好守で二年連続決勝進出を果した。湯沢の勝因は前半2本の7MT、後半数回のノーマークを阻んだゴールキーパーの好守が第一にあげられよう。

中大付、前半の優位守る

中大付属 17（9－5、8－8）13 麻　生

	【麻生】	得	【中大】	得
GK	浅野	0	西下	0
GK	生井沢	0	蒲川	0
FP	大友	1	佐生	11
FP	仲田	4	大藤	3
FP	小嶋	1	竹林	1
FP	高寺	1	安内	0
FP	金田	2	森	2
FP	額賀	4	坪子	0
FP	小倉	0	林	0
FP	角山	0	浦野	0
FP	鮫島	0	石川	0
FP	金塚	0	松	0

（審・森　大塚）

17（1）7MT（0）13

フリースローから蒲生に打たせる中央と速攻、ポストプレーを得意とする麻生の対照的なチームによる一戦。

前半、中央はもっぱら蒲生にボールを集め、着々と加点していった。麻生も良くチャンスを生かし得点をあげるが、中央の得点力に

はおいつかず、後半もそのままのペースで中央が押しきってしまった。

湯沢、終盤の反撃遅し

▽決勝

中大付属 12（6—3、6—6）9 湯沢

フリースローに絶対的切札をもつ中央は、前半15分まではせりあったが、以後ジリジリと引き離し前半終了時には3点の差をつけてそのまま、湯沢のミスに乗じて自己のペースでのりきった。

湯沢は後半5～10分の間に訪れた7MT、速攻ノーマークを連続してミスをしたのが大きくひびいた。

【湯沢】	得	【中大】	得
GK 小松	0	GK 松下	0
GK 佐々木	0	GK 西川	0
FP 藤原	0	FP 蒲生	9
FP 佐藤	0	FP 佐藤	0
FP 麻生	1	FP 大村	3
FP 半田	4	FP 竹内	0
FP 高橋	0	FP 安	0
FP 古関	3	FP 坪子	0
FP 菊子	1	FP 森	0
FP 内藤	0	FP 浦野	0
FP 高山	0	FP 石川	0
FP 由利	0	FP 林	0

（審・徳前 斎藤）

12（2）7MT（4）9

有力校、激しくつぶしあう

女子

須賀川、山梨を降す
大東大原、健闘実らず

▽1回戦

神埼農（佐賀）12（5—1、7—3）4 添上（奈良）

攻守に優る神埼の順当勝ち。添上はさして強力に思えない神埼の守備が破れなかった。

市邨学園（愛知）10（1—2、9—5）7 水海道二（茨城）

好ゲーム。市邨の勝因は後半の守備が安定したことにある。水海道は惜しい試合をおとした。

須賀川（福島）8（6—3、2—2）5 山梨（山梨）

前半スタート好調の山梨はすぐに須賀川の反撃を喰い5分間に5点を連取され、これが大きく響いた。

函館女商（北海道） 没収試合 城山（高知）

函館女商は宇佐美の巧技を軸に後半20分11—2とリード、ここで城山は登録外選手を起用したため試合没収となった。このようなケースは最近では第15回大会（昭39）の男子2回戦で八幡商（滋賀）がおかしている。

深谷女（埼玉）11（6—2、5—2）4 神戸女商（兵庫）

深谷女が速い動きで神戸女を圧倒し、自己のペースのまま試合を終了した。

益田（岐阜）11（4—6、6—4、0—1、1—0）11 財部（鹿児島）

※抽せんで益田高の勝ち

前半益田は財部にリードされたためあせり、それが財部の速攻をさそった。後半に入り、益田とペースが変り、益田↓財部↓益田とペースが変り、延長に入る。延長後も1点ずつで終り、益田の抽せん勝

都立五商（東京）8（3—2、5—2）4 新潟女（新潟）

同型のチーム。後半ブロックプレーを多用した五商がペースを握り新潟をふり切った。

米沢女（山形）13（6—5、7—3）8 守山女（滋賀）

守山は米沢のディフェンスを攻めあぐみ、一方米沢もシュートが決らず苦戦。結局後半ペースを握った米沢の順当勝ち

新居浜商（愛媛）9（3—1、6—6）7 粉河（和歌山）

粉河のロング、新居浜の速攻ともシュートが悪く苦戦。終盤新居浜は足で逆転し、2点差をつけた

佐世保商（長崎）12（6—2、6—3）5 下仁田（群馬）

佐世保は速攻と走力でスタートから下仁田を圧っし、前後半とも安定したペースで試合を終了。

高水（山口）8（4—3、4—4）7 上溝（神奈川）

高水は上溝のキーパーの好守に苦しんだが常に自己のペースで試合を進めた。

春日丘（大阪）11（4—2、7—2）4 青森西（青森）

春日丘の多彩な攻撃の勝利。青森がとまどっている間に春日丘は点差を開いた。

涌谷（宮城）6（3—1、3—4）5 津女（三重）

好試合、両チームとも元気はあるがシュートが決らず、僅かにチャンスを多くものにした涌谷が勝った。

有磯（富山）11（8—2、4—2）4 昭和学院（千葉）

昭和の単調な攻めを有磯は逆速攻で攻め、着々と加点し、地力の差を見せた。

小禄（沖縄）12（4—1、8—4）5 池田（徳島）

小禄の早いパス、速攻が冴え、池田を大きくひきはなした。小禄はキビキビしていた。

桜水商（東京）7（5—1、2—0）1 明徳商（京都）

前半で桜水の速攻により勝負のついた感じ。明徳は先取点をあげたのみ。

高蔵（愛知）9（2—2、7—3）5 明善（福岡）

明善の防禦のミス、攻撃のミスをついた高蔵が後半一気につきはなした。

熊本市立（熊本）9（4—1、5—3）4 甲子園学院（兵庫）

熊本は持ち前の体力を生かし、甲子園学院を圧倒した。熊本は余裕のある試合ぶりであった。

真備（岡山）13（7—4、6—3）7 大東大原（岩手）

序盤は一進一退をつづけたが地力に優る真備はしだいに点差を拡げた。速攻の巧拙が勝負を分けた

過疎地の分校といろハンデをのりこえて健闘した大東大原をたたえる拍手は一きわ大きかった。

小松市女（石川）18（6—2、12—0）2 日野（神奈川）

攻守ともに抜群の小松の前には日野は敵ではなかった。日野はゴール前の鋭さがほしい。

竹田女（山形）7（3—0、4—3）3 都城泉ヶ丘（宮崎）

地元の大声援に応え、好スタートをきった竹田はそのまま一試合のりきった。

加納（岐阜）17（7—3、10—2）5 松江農林（島根）

松江はすべてに非力。シュートを打たせてからの加納の速攻がすべてを決めた。

麻生（茨城）11（6—5、5—4）9 三本松（香川）

麻生の速攻が大きくものを云った一戦。終始麻生は自己のペースで試合を進めた。

涌谷、有磯に辛勝
新居浜商、佐世保商に敗る

▽2回戦

山陽女（広島・前年優勝）5（2—2、3—1）3 神埼農

試合は一進一退。長身の山陽が身長差を生かし、しぶとく粘り勝ちした。

市邨学園 7（5—3、2—3）6 小諸商（長野）

小諸は前半堅くなった。一方市邨は比較的組織的な動きをし、こ

れが勝利につながった。

深谷女 7（4−3／3−2）5 福井商（福井）

福井は好スタートをきったが、深谷が速攻で連続得点をし、主導権を握り、そのまま押しきった。

須賀川 5（3−1／2−4 … 0−0／0−0）5 函館女商

※抽せんで須賀川長沼高の勝ち。

前半は須賀川、後半は函館のペースであった。函館は一時2点差をつけ優位にたったが、須賀川は良く追いこみ、延長戦になった。延長後は両者とも決め手がなく、須賀川の抽せん勝ちになった。

大谷（大阪）4（1−2／3−0）2 益田

動きの激しい好試合。後半益田の守備の乱れをすかさずついた大谷の勝利。

都立五商 7（4−4／2−2 … 1−0／0−0）6 米沢女

実力互格の好試合。前半は五商後半は米沢のペース。延長後はフリースローからのポストプレーが決勝点となった。五商GKの好守が勝因の第一である。

佐世保商 5（1−2／4−2）4 新居浜商

後半開始直後の佐世保の連続得点が勝敗を決めた。新居浜は良く動いたが、チャンスが実を結ばなかった。

大分東（大分）9（7−2／2−4）6 春日丘

大分は前半多彩な攻撃で大量点をあげ、後半の春日丘の反撃を押え、三回戦に進んだ。

高水 10（3−5／5−3 … 2−0／0−1）9 清水西（静岡）

県予選で古豪を退けて出場した両校の対戦は興味深かったが、前半劣勢の高水は後半開始直後持ちなおし、延長となった。延長前半高水は1分芦村、1分40秒藤井が得点押し切った。

涌谷 6（5−4／4−4）8 有磯

シーソーゲームに終始。好ゲーム。有磯は良藤は良いところでミスが出及ばなかった。

桜水商 6（2−1／4−2）3 小禄

両チームとも守備が良く、ロングシューターを欠くため、1点が大きく響いた。チャンスを生かした桜水の順当勝ち。

市邨学園高蔵 13（10−0／3−5）5 広島一女商（広島）

高蔵は多彩な反撃で、前半で試合を決めた。一女商は高蔵の守備が破れず、完敗。

国学院栃木（栃木）8（4−2／4−3）5 熊本市立

杉木は終始試合の主導権を握り順当に勝つ。熊本はパスミスと単調なシュートを繰り返した。

小松市女 20（9−4／11−3）7 真備

出足に勝る小松が攻守ともに相手を圧倒し、ポストプレーなどで着々点差を開いた。

竹田女 9（5−1／4−3）4 加納

スタート直後の連続得点で調子にのった竹田はそのままの調子を持続して快勝。

秋田和洋女（秋田）12（5−2／7−4）6 麻生

和洋女の速いゆさぶりを麻生は防ぎきれず、組織的動きができないまま破れた。

山陽女、2連覇の夢消ゆ

健闘の須賀川も力つく

▽3回戦

市邨学園 11（7−3／4−5）8 山陽女

立ち上り市邨は速い動きで3−0とリード。後半、山陽は速攻などで良く追いかけたが、前半の失点が大きすぎ、追いつけなかった両チームとも、ディフェンスが荒いのは一考を要しよう。

涌谷 10（5−2／5−1）3 大分東

前半10分までは両者得点がなく重苦しい空気。涌谷はサイドからの反撃がよく決まりリード。後半調子づいた涌谷は良く走り、多彩な攻撃を見せ、着々と点差を開いていった。

深谷女 6（3−2／3−2）4 須賀川

深谷は須賀川の守備を攻めあぐみ、須賀川は攻撃にこれといった決め手のないままに前半を終了。後半は深谷ペースになったが、点差のわりに盛りあがりのない試合であった。

市邨学園高蔵 12（8−1／4−1）2 桜水商

スタートより完全な高蔵ペースカットイン、ポスト、ロングと多彩な攻撃を見せ、15分までに7−0と大勢を決めた。一方大敗蔵の固い守備を破れずに、大敗した。

国学院栃木 6（4−3／2−2）5 小松市女

両チームとも動きが良く、一点を争う好ゲームを展開。チャンスを確実に得点に結びつけた杉本辛勝した。両チームと多く、特に両GKのプレーは印象に残った。

大谷 5（0−2／5−1）3 都立五商

前半はスローペースの五商、後半は速攻の大谷という試合であった。大谷は後半は良く走り、12分に追いつき17分、19分と連続得点をあげ、辛じて五商をふりきった。

秋田和洋女 11（5−2／6−2）4 竹田女

竹田のスタートは良かったが、すぐに和洋に追いつかれる。竹田は再三のチャンスをゴールに当てそこから反撃されたのが痛かった竹田のGK千葉の好守をたたえたい。

高水 10（3−5／5−3 … 2−1／0−0）9 佐世保商

両チームともロングシューターを持つ同型のチーム。高水→佐世保→高水とペースは移り、延長戦に入る。延長後、高水が先取点をあげたが佐世保も最後まで良く粘った。

初優勝狙う4強豪揃う

和洋女、涌谷ら散る

▽準々決勝

市邨学園高蔵 11（3−2／9−1）3 涌谷

得	【高蔵】		【涌谷】	得
0	田中	GK	佐佐	0
0	遠山	GK	安住	0
2	柴田	FP	加藤	1
1	蟹江	FP	柴田	1
5	蓑島	FP	高橋	0
0	加藤	FP	中村	0
2	佐々木	FP	千葉	1
0	西川	FP	穂積	0
2	大島	FP	木村	0
0	遠藤	FP	里沢	0
0	副田	FP	相沢	0
		（審・遠藤 佐分）	土生木	0
11	（0）	7MT	（1）	3

前半両チームとも単調な動きで少ない得点にとどまった。

涌谷は後半すぐ一時は同点にしたが守備が崩れ、そこをつかれ、4点を連取され、ガック。リその後、気落ちし、さらにあせる涌谷を完全に自己のペースにのせた高蔵は大量点を得、快勝。

国学院栃木 11（4−3／7−2）5 秋田和洋女

前半はポスト・ミドルを使いわける栃木、走る和洋と互格。後半

位置	【和洋】	得	位置	【国学】	得
GK	池田	0	GK	桑谷	0
				大森	0
FP	武内	0	FP	山井	1
	鈴木	0		戸田	3
	加藤	2		鈴木	3
	小玉	1		大塚	0
	沢田石	0		若菜	0
	桜庭	1		富田	1
	武田	1		茂呂	3
	松橋	0		殿塚	0
	藤田	0		大橋	0
	鎌田	0		高山	0

（審・河本、山田）

11（1）7TM（0）5

栃木は長身を利しての戦いで巧みに自己のペースをつかみ、試合を有利にしていった。一方和洋は小柄だが、よく走り善戦したが、攻撃が単調なのと、守備が甘いのが敗因となった。

深谷女 4（2—1, 2—1）2 市邨学園

位置	【市邨】	得	位置	【深谷】	得
GK	杉原	0	GK	金井	0
	佐々	0		鹿沼	0
FP	関口	0	FP	浅見	2
	林	0		菅野	2
	竹内	1		藤倉	0
	森	0		野口	0
	日永	0		大谷	0
	石川	1		仲田	0
	小田	0		大屋	0
	葛谷	0		品田	0
	岩田	0		大沢	0
	藤田	0			

（審・上田、辻）

4（0）7MT（0）2

深谷は前半2—1とリード。市邨は深谷ディフェンスを攻めあぐみ、また数度訪れた同点のチャンスも深谷のGKの好守にはばまれた。逆に深谷のロングシュートが決まり決定的な2点差となった。市邨に惜しまれるのはロングシュートがいないことであった。

高水 12（5—3, 7—1）4 大谷

前半、高水はローリング、フェイントから確実に得点を決め、一方的な試合とした。後半大谷はやや動きが良くなったが、ミスプレーが多く追えなかった。高水は余裕ある試合ぶりで主導権を最後まで握っていた。

位置	【大谷】	得	位置	【高水】	得
GK	中西	0	GK	菊池	0
	中田	0		増山	0
FP	川崎	1	FP	角本	0
	雪本	0		竹中	0
	岡本	0		藤井	2
	池淵	0		村岡	2
	松本	1		波多腰	1
	土井	2		芦村	1
	神谷	0		松岡	2
	中谷	0		広重	0
	下木原	0		村重	4
	檀棒	0		白浜	0

12（0）7MT（0）4

深谷女、高水の反撃振り切る

▽準決勝

深谷女 7（5—2, 2—3）5 高水

前半、深谷女の早い帰陣とGKの好守に高水が攻めあぐんでいる間に深谷はフォーメーションプレーから着実に得点をあげていった。

後半、高水は守りが良くなってきた。それに対応し、攻撃でも、リバランドを良く捨い得点に結びつけ、1点差まで追いあげたが、深谷もここで2点連取し、つきはなした。肝心な場面での、深谷女のGKの好守、とくに最大のやま場での7MTの好守は大きくものをいった。

位置	【高水】	得	位置	【深谷】	得
GK	藤池	0	GK	金井	0
	増山	0		鹿沼	0
FP	角本	0	FP	浅見	1
	竹中	0		菅野	1
	藤井	0		藤倉	2
	村岡	1		野口	0
	波多腰	2		大谷	3
	芦村	0		仲田	0
	末岡	1		大屋	0
	広重	0		品田	0
	村重	0		大沢	0
	白浜	0			

（審・日野、清川）

7（1）7MT（2）5

高蔵、国学院に逆転勝ち

市邨学院高蔵 9（4—6, 5—1）7 国学院栃木

位置	【国学】	得	位置	【高蔵】	得
GK	桑谷	0	GK	田中	0
	大森	0		遠山	0
FP	山井	0	FP	柴田	0
	戸田	1		蟹江	1
	鈴木	5		蓑島	5
	大塚	0		加藤	0
	若菜	0		佐々木	2
	富田	0		西川	0
	松本	0		大島	1
	熊倉	0		遠藤	0
	茂呂	1		副田	0
	殿塚	0			

（審・徳前、斎藤）

9（2）7MT（1）7

前半は栃木は快調に得点を重ね2点差として有利な試合展開となった。高蔵は後3半分に同点にしその後はリードしつつ主導権を握った。後半、高蔵は早いつぶしのディフェンスをしき、攻めては数少ないチャンスを確実にものにして、得点を重ね逆転した。この逆転勝ちは見ているものに強い印象をあたえた。

前半かなりの得点をあげながら後半1点しかとれなかった栃木の攻めにも問題があろう。

菅野(深谷)貴重な7MT

▽決勝

深谷女 4（3—1, 1—2）3 市邨学園高蔵

優勝戦にふさわしい手に汗握る一戦。深谷はタイムアップ寸前の7MTを菅野が右スミに決め、初優勝をとげた。

位置	【高蔵】	得	位置	【深谷】	得
GK	田中	0	GK	金井	0
	遠山	0		鹿沼	0
FP	柴田	1	FP	浅見	0
	蟹江	0		菅井	3
	蓑島	1		藤沼	0
	加藤	0		野見	1
	佐・木	0		大谷	0
	西川	0		仲田	0
	大島	1		呂田	0
	遠藤	0		大沢	0
	副田	0		大屋	0
	恒川	0			

（審・森、大塚）

4（2）7MT（0）3

両チームスタートから固くなりミスをくり返した。セットも守りが堅く、得点にならず重苦しい空気が続いた。先取点は高蔵が速攻であげたが、ここから深谷がリラックスし、11分ミドル、18分7MT、19分ステップと3—1とリード。後半は高蔵ペース。15分にはポストプレーが決り同点にし、高蔵優位と思われたが、深谷は最後の速攻のチャンスに7MTをつかみ初優勝した。

来年度から1県1校制

高体連ハンドボール部では来年度以降全日本高校選手権の参加校を男女とも1県1校制に改め、チーム構成も役員2、選手14名に変える。

これは膨張する一方の全国高校総合体育大会を適正化しようという各競技共通のもので、これまでは、予選参加校が男子30、女子20校以上の県は2校の代表だった。

なお、前年度優勝校は予選なしで推せん、開催県は2校の出場が認められるのは従来どおり。

全日本高校選手権総評

嶋田新太郎
（日本協会常務理事 大会審判長）

中大付で光る長身・蒲生

今年は特にミュンヘン大会初出場とあって選手たちの張り切りぶりも例年以上に映り、しかも開始式（8月2日）直後、オリンピック代表選手の壮行式が行われて、大会気運は大いに高まった。

そのムードが各試合にも反映、白熱した闘いが随所に見られた。

男子では前年優勝の湯沢(秋田)が2回戦で高島(滋賀)と引き分け抽せん勝ちというラッキーをつかみ、その勢いにのり、優勝候補とみられていた小倉西(福岡)を突きはなして決勝へ進出、一方毎年力をもちながら優勝を果せなかった中大付属(東京)が長身・蒲生を中心にして強豪佐世保北(長崎)、清水市商(静岡)、麻生(茨城)らを破って湯沢と対決した。

湯沢のGK小松に対し中大付・蒲生の対戦というコートサイドの前評判どおりの戦況になり、初めから熱気をはらんだ。

湯沢は先取点をあげ勢いにのろうとするが蒲生のフリースローで追いつかれ前半は6―3と中大付がリードした。

後半湯沢の反撃が期待されたが7MTの失敗、速攻のノーマークをミスする拙攻などあって点差は縮らず中大付に名を成さしめた。

宿願の初優勝を果した中大付は決勝戦12点のうち9点をたたき出した189cmのエース蒲生の活躍がなんといっても光り、他の選手も洗れんされたプレーを示し安定度は参加チームずい一だった。

この両校のほか小倉西、麻生らがまとまりのある好チームで、あと一歩の押しがあればと惜しまれた。地元東根工、大石田はともに3回戦で敗れたが、声援にこたえて好試合を展開、健斗してくれた。

深谷女、実力を存分に示す

女子はまったく予想もしていなかった深谷女(埼玉)が、各試合とも少差ではあるが相手を巧みに振り切って勝ちあがり、明善(福岡)涌谷(宮城)、国学院栃木らの名門をなぎたおした高蔵(愛知)と互に初優勝を争った。

それまでの試合ぶりから高蔵有利という声が大きかったが、深谷女は先取点をとられてかえって動きがリラックス、優勝を意識しない走りで盛り返し一気にリード、2点の貯金と高蔵の反撃を守りの強さで同点にされたものの主導権まではゆずらず3―3から19分30秒の7MTをみごとに活かして劇的な優勝を決めた。

高蔵は1回戦からよく走り相手チームを一方的に降してきただけに優勝するのではと思っていたがさすが決勝戦は固さがのぞき、持てる力の半分の動きもみられずに深谷女の守りに勝ちをゆずった。次回で健斗を待ちたい。

国学院栃木も熊本市立、小松市女(石川)、秋田和洋と強力チームをたてつづけに破りながら勝運なく、初出場ながら3位となった高水(山口)の活躍とともに拍手を送りたい。

変わったケースとしては函館女商(北海道)が1回戦没収勝ち、2回戦は須賀川(福島)ともつれた試合のあと抽せん負けという前例にないようなこともおきた。

男女とも地域差解消

全般的には男女とも地域的な格差がなくなりほとんどが肩を並べるといった調子で、訓練のよくゆきとどいたチームが着実な前進をしていたといってよいだろう。

力の平均化は望ましいことである。特に女子は昭和38年以来連続10年優勝校が入れ替り〝連勝〟は至難となった。10校を地域別にみると関東3、東海2(1校)、東北2、九州、四国、中国各1と散らばっている。

今大会は東根市あげての大会で期間中は市役所総あげ、その配慮の深さはすみずみまでに行きわたり気持ちのよい大会であった。

ことに会場地の東根工高では開催にあたり生徒会の皆さんが中心になって全国からの役員、選手を迎えるために花壇をつくり迎えて下さったことは大変嬉しかった。

グランドも心配された雨を一蹴して、第2、第3日に1時間の遅れがあっただけで終始好天に恵まれ、これが好試合を続出する大きな力になったといえるだろう。

コート整備も東根工を中心とした近隣各高校が6面をそれぞれ受けもっという完ぺきさで、これまでにない整いかたであった。

これらすべてが一つになったおかげで大会が滞りなく終了したことは高体連関係者一同厚く感謝申しあげたい。

最後にグランドを守ってくれたシートと補助員の皆さん、接待にあたった女子高生の笑顔、警備、受付、放送の市関係のかたがた、東根工高を含めて各高校の先生がたには大変御苦労をいただきました。深い感謝の意をささげるとともに今後の東根市の発展をお祈りし、東根温泉の宿舎にあたっていただいた皆様の好意にも感謝して総評といたします。

大洋5連勝

女王の座ゆるがず

重機・白花（韓国）らをかわす

全日本実業団

〔記録のみ前号既報〕第13回全日本女子実業団選手権は7月11日から16日まで北海道室蘭市体育館に強豪8チームと韓国・白花醸造（ソウル）が昨年につづき特別参加して行われ、予想どおり大洋デパート（熊本）が危気なく全勝、5年連続6度目の栄冠を握った。なお、男子は9月27日から名古屋で行う。

目立つ鳥居（ブラザー）の活躍

◇予選リーグ▽A組　日本ビクター（茨城）11―8ブラザー工業（愛知）、大洋デパート（熊本）13―7日本ビクター、大洋デパート10―8ブラザー工業

▽B組　田村紡（三重）11―10東北ムネカタ（福島）、東京重機（東京）18―9東北ムネカタ、東京重機17―10田村紡

▽C組　大崎電気（埼玉）23―2扇屋（千葉）、白花醸造（韓国）28―4扇屋、白花醸造11―10大崎電気

○……各組とも順当な顔ぶれが決勝リーグへ進んだ。惜しかったのはブラザー工業。大洋戦では後半1―7の劣勢から鳥居の大活躍であっという間に同点に追いつき、17分鳥居がこの日7点目のゲットで8―7と逆転した。しかし大洋は19分の7MTを垂水が冷静に決めて一息、22分島田のミドル、23分7MT（蔵田）で辛くも逃げこんだ。ブラザーはビクター戦も相手の先行を許す拙さに泣いた。後半15分から一気に4点をたたみかけた攻撃がもう少し早目に出たらと悔やまれよう。両強豪を相手に12点を叩きだした鳥居の成長はめざましいものがある。

○……田村紡×東北ムネカタも好試合。たえず先手をとっていた田村に対しムネカタは前半18分有賀のゴールで5―5。試合運びに余裕のある田村はここで焦らず三毛辻が連続得点、優位を保った。ムネカタは後半もよく粘り14分9―10と追いこんで予断を許さなかったのだが、田村は21分広森のゲットで11―9とし、ムネカタの反撃を24分の7MT（後藤）だけにおさえ辛勝。全国大会初登場の扇屋はまだ力不足。2試合とも一方的に押しまくられた。対白花戦の記録は別掲のとおり。

得	【白花】		【扇屋】	得
0	李太姫	GK	鶴岡	0
0	李貞順	GK	宮武	0
1	黄月暎	FP	戸村	0
5	尹永全		塩谷	0
4	李純玩		伊藤	2
4	俞慶淑		桜井	2
0	安庚淑	（審・佐々木、由利）	山倉	0
5	権美子		木村	0
3	卓英子		山村	0
2	高善竜		石積	0
4	朴光子		相川	0
0	鄭淳福		村上	0
28	（1）	7MT	（1）	4

重機、大洋の堅城崩せず

◇決勝リーグ

大洋デパート　13（6―6、7―1）7　日本ビクター

（この試合は予選リーグで対戦）

得	【大洋】		【日ビ】	得
0	小原	GK	渡辺	0
0	森山	GK	鈴木	0
5	垂水	FP	蓮見姉	3
0	米		八重樫	0
0	村中		阿部	0
0	釼		蓮見妹	0
2	島田		山口	1
2	蔵田	（審・関川、熊田）	富山	1
0	加子崎		大塚	1
2	植原		谷沢	1
2	篠田		川崎	0
0	山下		高野	0
13	（1）	7MT	（2）	7

○……大洋・垂水、ビクター・蓮見姉の両ベテランを中心にスピーディな試合展開となった。大洋はセットオフェンス、速攻と多彩な攻撃で着実にポイントしたのに対し、ビクターは大洋の厚いディフェンスに手を焼いていた。ビクターは前半2―5のあとに得た2本の7MTで点差をつめ、終了間ぎわ大塚、谷沢のゲットで同点、さらに後半9分富山のゴールで7―6と初めてリードした。大洋は後半15分間無得点だったが16分植原の得点を口火に再び好調となり連続7ゴール、ビクターをつきはなした。（佐々木茂喜）

東京重機　17（7―5、10―5）10　田村紡

（この試合は予選リーグで対戦）

○……前半、重機は牧野のスタンディングからのミドルとカットインそれに古佐原のランニングシュートで得点、田村も相手のパスミスに乗じて三毛のロングなどで対抗、20分5―5と互角。重機は22分葛西、23分鈴木で2点のリードを奪ったのが後半の動きを軽くした。GKからのワンパス速攻やカットボールなどから一方的に田村を攻めつけ15分には13―7。田村も最後まで健闘したが、重機の走りとパスワークに追いつけなかった。（熊田栄一）

白花醸造　11（6―3、5―7）10　大崎電気

（この試合は予選リーグで対戦）

得	【白花】		【大崎】	得
0	李太姫	GK	和田	0
0	李貞順	GK	西村	0
0	黄月暎	FP	長谷川	0
0	尹永全		新島	1
3	李純玩		寺尾	4
4	俞慶淑		岩井	1
3	権美子	（審・佐々木、由利）	佐藤	3
1	朴光子		席定	0
0	鄭淳福		長谷川	1
0	安庚淑		安野	0
0	卓英子			
0	高善竜			
11	（0）	7MT	（2）	10

○……力はまったく互角。わずかに白花が前半20分すぎから権と李（純）のロングシュートで優位に立った。後半は白花が僅かに押し気味で14分には11―6と開いたが、大崎は15分以後はげしく追いあげ24分新島のミドルで1点差としたが及ばなかった。（岡田豊夫）

日本ビクター　15（7―6、8―5）11　白花醸造

得	【日ビ】		【白花】	得
0	渡辺	GK	李太姫	0
0	鈴木	GK	李貞順	0
8	蓮見姉	FP	李純玩	4
0	八重樫		黄月暎	0
4	富山		俞慶淑	5
1	大塚		権美子	0
2	谷沢	（審・佐々木、由利）	朴光子	2
0	山口		鄭淳福	0
0	蓮見妹		安庚淑	0
0	川崎		卓英子	0
0	高野		高善竜	0
0	阿部		尹永全	0
15	（4）	7MT	（1）	11

○……ビクターは巧妙なポストプレーで15分5―3としたが白花は得意の45度からスタンディングシュートで反撃、18分6―6となった。ビクターは23分7MT（蓮見姉）で再び先行、後半5分までに蓮見姉の速攻と、富山の巧技で2点をあげた。白花は前半に見せたような鋭い攻撃力を欠き、しかも7―10、9―12のあとそれぞれ7MTをとられて点差が開いたのが痛かった。またポイントゲッター李（純）の2回（通算7分間）の退場もひびいた。（関川正道）

歴代優勝チーム

①昭35　愛知紡＝認定
②　愛知紡
③　愛知紡
④　レナウン東京
⑤　大崎電気
⑥　大洋デパート
⑦　田村紡
⑧　田村紡
⑨　大洋デパート
⑩　大洋デパート
⑪　大洋デパート
⑫　大洋デパート
⑬　大洋デパート

東京重機 15（6—0, 9—4）4 大崎電気

○……大崎は寺尾を中心にセットで攻めたがシュートチャンスにパスミスが多く、重機に逆速攻から得点を奪われた。後半も重機の好調はつづき15分には11—1と開いて勝負が決まった。（岡田）

大洋デパート 11（5—3, 6—1）4 田村紡

○……前半20分までは田村紡がやや押し気味だったが、大洋は7MTを確実に活かして追い、21分垂水の7MTで4—3とこの試合初めてリード、タイムアップ寸前には植原が加点した。後半は余裕の生まれた大洋が15分までに3点をあげて8—4、終盤矢次早にポイントして押し勝った。田村紡は後半、攻守に粘りが欠け、相手の巧い試合運びに制せられた。（佐々木）

田村紡 16（9—3, 7—3）6 大崎電気

○……田村は5分2—1から三毛金田、辻が一気に得点を重ね20分には8—1。大崎もよく動いていたが寺尾以外に決め手がなく、散発的にポイントを返したに留った。（岡田）

決勝リーグ勝敗表

	洋	重	田	ビ	大	白	P	得	失
①大洋デパ	…	○	○	○	○	○	10	74	34
②東京重機	●	…	○	○	○	○	8	74	45
③田村紡	●	●	…	○	○	○	6	51	49
④ビクター	●	●	●	…	●	○	2	47	57
⑤大崎電気	●	●	●	○	…	●	2	35	67
※白花醸造	●	●	●	●	○	…	2	49	77

Pは勝ち点

【7位以下の順位】 ⑦ブラザー工業 ⑧東北ムネカタ ⑨扇屋

東京重機 13（5—4, 8—5）9 日本ビクター

得	【重機】		【日ビ】	得
0	長岡	GK	渡辺	0
0	生井		鈴木	0
0	滝口	FP	谷沢	2
6	牧野		大塚	0
4	古佐原		富山	2
0	村上		山口	0
1	市川		八重樫	1
1	葛西		蓮見姉	3
1	松本		蓮見妹	0
0	荒木		阿部	0
0	菊地		額賀	0
0	鈴木		高野	1

（審・岡田、梅野）

13（2）7MT（0）9

○……好試合だった。先制点はビクターがあげたが、重機は牧野と古佐原のゲットですぐにとり返し15分4—1とした。ビクターも蓮見姉、富山らで追いすがり21分谷沢のゴールで4—4と振り出しに戻したが、重機は23分古佐原で優位を手ばなさなかった。

後半、重機は一気にスパート、10分までに4ゴールして5点差をつけたのだが、ビクターもひるまず11分から5分間に4点をあげ8—9と興味をもりあげた。

しかし重機は19分古佐原のゲットでペースを戻し21分松本がゴール11—8と勝利へつなげた。重機の勝因の一つにリバウンドボールの処理の巧さがあげられよう。

大洋デパート 21（13—4, 8—6）10 白花醸造

得	【大洋】		【白花】	得
0	小原	GK	李太姃	0
0	森山		李貞順	0
3	垂水	FP	李純玩	2
0	米		権美子	2
0	釼		卓英子	1
7	島田		俞慶淑	2
5	蔵田		鄭淳福	2
0	長田		尹永全	1
4	加子崎		安庚淑	0
0	植原		高善竜	0
0	篠田		朴光子	0
2	山下		黄月暎	0

（審・佐々木、由利）

21（5）7MT（1）10

○……日韓ナンバーワン同士の対戦。開始早々白花は相手シューターへのディフェンスが荒く7MTを10分までに2本とられたほか、垂水の13m地点からのロングシュート、島田のシャープな切りこみなどに押しまくられあっさり8—0と点差が開いてしまった。

大洋はなかばすぎから若手を起用するほどのゆとりを示し、白花は李(純)のロングなどで散発的に得点を返したに留った。（関川）

田村紡 9（3—4, 6—3）7 日本ビクター

○……田村は三毛—広森のコンビ攻撃を仕掛けたが、ビクターの出足のよい守りを崩せず前半は思うように動けなかった。一方ビクターの攻撃はロング、ポストなど多彩だったがボールを持ちすぎる場面が多くチャンスを活かし切れない。後半1分ビクターは1点を加えて5—3としたが、田村紡は2分三毛、3分広森、4分辻とたてつづけにシュートが決まって逆転10分すぎにも連続3本の速攻で優位に立った。ビクターはこの劣勢に焦りをみせて攻撃のリズムが狂い終盤2点を返しただけだった。（由利弘）

大洋デパート 16（9—1, 7—3）4 大崎電気

○……大洋がすばらしい先制攻撃を実らせて15分7—0。その口火を切ったのは4分垂水が右のフェイントから左手で相手攻撃を割りシュートを決めるという美技だった。

大崎は寺尾を中心によく動いていたが佐藤らのシュート力に安定感がなく敗退。なお、前半15分大洋・米は相手選手と激突、下あごを切傷した。（岡田）

東京重機 19（7—5, 12—4）9 白花醸造

得	【重機】		【白花】	得
0	生井	GK	李太姃	0
0	上杉		李貞順	0
0	滝口	FP	李純玩	3
6	牧野		李月暎	1
4	古佐原		尹永全	1
1	村上		俞慶淑	1
0	市川		鄭淳福	0
2	葛西		安庚淑	0
4	鈴木		権美子	1
1	松本		卓英子	0
1	荒木		高善竜	0
0	菊地		朴光子	2

（審・熊田、関川）

19（3）7MT（2）9

○……白花の立ちあがりはよく朴(李純)らの好プレーで15分5—1とリードした。しかし重機は15分5秒牧野のゲットでリズムを取り戻し1分おきにポイントして18分古佐原で同点、19分鈴木が逆転のシュートを決めたあと21分の7MT（古佐原）で逆に主導権を手にした。

後半も重機はスピードに乗った攻撃で着々加点、13分には14—6と大差をつけた。白花はせっかく好スタートを切りながらラフプレーがたたって4回（3人）の退場者を出すなど自滅したのは惜しまれる。（佐々木）

大崎電気 11（5—2, 6—7）9 日本ビクター

○……大崎は3分佐藤がステップによるアンダーシュートで先行、ビクターも富山がロングを放って同点、2点目は互に7MTを決めるという面白い展開をみせた。

このあと大崎は寺尾が好プレーを示し、ビクターの拙攻をよくついてリードを奪った。

後半にはいるとビクターの動きが立ちなおり、5分までに3点をあげて5—5とタイ。その後は一進一退となり7—7から大崎が14分と18分の7MT（佐藤）、17分、19分新島の鋭いシュートで11—7と差をあけ、そのままのペースでビクターを押し切った。連敗を食い止めようとする大崎の気力勝ちといえよう。（関川）

田村紡 12（5—2, 7—6）8 白花醸造

男	【田村】		【白花】	得
0	久保	GK	李貞順	0
			李太姃	0
0	沖	FP	俞慶淑	3
7	三毛		尹永全	3
0	広森		安庚淑	0
1	金田		卓英子	1
2	辻		高善竜	0
1	久保田		黄月暎	0
1	坂本		朴光子	1
0	笠		鄭淳福	0
0	東		李純玩	0
0	若林		権美子	0

（審・関川、熊田）

12（2）7MT（2）8

○……互いに相手の厚いディフェ

ンスを攻めあぐみ、特に白花は前日の試合で攻撃の主力・李純玩と権美子を負傷させ欠いたために鋭さがなかった。

田村は20分すぎからようやく動きがスムースとなり辻のスカイプレーなどで3点差をつけた。

後半田村はエース三毛が好シュートを連続して決め、金田の7MTを加えて7分8−2とした。

白花も得意のクイックシュートなどで反撃を試みたが、やはり力のある二人の欠場が痛く追いこめずに終った。なお、白花の対日本チームの成績は通算18戦9勝8敗1分となった。

(由利)

大洋デパート 13 (8−5, 5−5) 10 東京重機

【重機】	得	【大洋】	得
GK 生井	0	GK 小原	0
GK 上杉	0	GK 森山	0
FP 滝口	0	FP 垂水	5
牧野	4	釼	0
古佐原	1	島田	4
村上	0	蔵田	1
市川	2	長田	0
葛西	2	加子崎	0
鈴木	1	植原	1
松本	0	篠田	2
荒木	0	米	0
菊地	0	山下	0
計	10 (1)	計	13 (3)

(審・由利・佐々木)

13 (3) 7MT (1) 10

○……"決勝"にふさわしくスタートからもつれた。大洋は島田、重機は牧野の活躍で得点、13分4−3と大洋がリードあと重機は14分の7MTを失敗、逆に大洋は速攻から垂水が鮮かにゲット、5−3と開いた明暗はこの試合そのものを色分けたともいえる。

勢いにのった大洋は19分篠田がゲット、このあたり大洋のたたみかけはさすがに巧い。

後半、開始とともに大洋は再びスパート、2分7MT(垂水)、5分篠田で10−5。重機にこの2点はこたえたハズだ。

そのあと葛西、鈴木、古佐原で追いこんだが、大洋はじっくりチャンスを活かして15分蔵田の7MTで13−8と優位をキープ。

重機の反撃をそのあと2点だけに封じこんで優勝を決めた。重機は主戦GK長岡を負傷(ビクター戦)で欠きながら健闘、チーム力アップを印象づけ、下半期の大洋デパート戦に興味を残した・

(関川)

7位にはブラザー工業

◇7−9位決定リーグ

東北ムネカタ 15 (9−2, 6−2) 4 扇屋

ブラザー工業 18 (8−1, 10−2) 3 扇屋

ブラザー工業 15 (11−2, 4−3) 5 東北ムネカタ

【東北】	得	【ブ工】	得
GK 続橋	0	GK 佐藤	0
GK 中村	0	GK 井戸田	0
FP 伊賀	1	FP 森	0
小泉	1	藤浪	4
後藤	2	金村	1
渡部	0	藤田	0
遠藤	0	鳥居	6
有賀	1	森本	3
本泉	0	原川	0
清水	0	長塚	0
小山田	0	宮崎	1
日下	0	熊谷	0
計	5 (0)	計	15 (1)

(審・梅野・岡田)

15 (1) 7MT (0) 5

★大洋デパート 15全国大会に連続優勝

□……女王・大洋デパート(熊本)が全国大会での連続優勝記録を「15」に伸ばした。43年8月の第23回全日本総合選手権(長崎市)以来、実に4年間にわたる快記録である。

15大会の勝率は96%(61戦59勝2敗)と驚異的なもので、45年2月11日第10回全日本実業団選手権(名古屋)で田村紡に8−9で敗れたのを最後に負けしらず、公式戦48連勝(このうち全国大会での勝利は33)をつづけている。

□……大洋にとって連勝街道のピンチは昨秋の和歌山国体だった。レギュラー7人が世界選手権参加のため欠場、いかに層が厚いとはいえ若手だけでは乗り切れまいとみられたのだが鮮やかに"偉業"はうけつがれ、井監督や枝尾コーチ(当時主将)は『後輩たちの健闘、涙が出るほど嬉しかった。連勝への意欲はこれでいちだんと盛りあがった』という。

□……今シーズンは枝尾が退き渡辺、三宅が抜けた。それに引きかえライバル各チームは不動のメンバー。NHK杯(6月)も今大会も苦戦がささやかれながら、それをはねのけての二冠獲得である。本場ヨーロッパの空気に触れて円熟味をました垂水、小原。ますます張り切る米、島田。それに蔵田、釼、加子崎、植原、篠田、山下、森山らの若手も順調に伸びてきた。

□……洗れんされたプレーとともに、コートマナーのよさも定評があり"大洋ファン"は全国に数多い。

『連勝よりも日本女子界のレベルアップに役立ちたい』という井監督の抱負を、選手たちは充分承知している。この気力がある以上44、45年につづく3度目の4冠王も夢ではない。

(S)

15大会対戦別勝敗表(本誌調べ)

【対戦チーム】	試	勝	負
大崎電気	13	12	1
田村紡	10	9	1
東京重機	7	7	0
ブラザー工業	7	7	0
日本ビクター	4	4	0
東北ムネカタ	4	4	0
三菱鉛筆(廃部)	4	4	0
日体大	3	3	0
白花醸造(韓国)	2	2	0
大阪スターズ	2	2	0
その他のチーム	5	5	0
計	61	59	2

9月15日、名古屋で 全日本学生東西対抗

学生界恒例のオールスターズゲーム・第22回(女子第4回)全日本学生選抜東西対抗戦は9月15日午後1時から名古屋市の愛知県体育館で行われる。

男女とも今年も東軍が優勢でその3連勝は動かないだろう。

台湾女子 来日せず 愛知クラブ連盟によって打診されていた台湾女子教員(チーム名未詳)の今夏の来日はとりやめになった。

意気ごむ地元大同製鋼

～8強集結の全日本実業団～

大崎、湧永らと激戦必至

第13回全日本男子実業団選手権は9月27日から10月1日までの5日間、名古屋市体育館にオリンピック選手8人を含む全国最上位8チームが参加して開かれる。ミュンヘン明け最初のビッグエベントにふさわしい好内容が期待できよう。（編集部）

大会は参加8チームを2組に分け予選リーグのあと、各組1、2位が決勝リーグを争う。

予選の組み分けからベスト4へ勝ちあがるとみられるのはA組から大崎電気（埼玉）、湧永薬品（大阪）、B組から大同製鋼（愛知）が動かず、B組の残り一つは予断を許さない。

しかし、最終的に優勝（高松宮杯）を争うのは大崎、湧永、大同とみてよく、3者の激突はみものである。

例によって予選リーグの対戦記録は決勝リーグに持ちこまれるため、大崎×湧永戦（29日）がまず星争いに影響してくる。

両者の昨シーズンにおける対戦は4回で8－8、11－9（湧永）6－6、11－9（大崎）とまったくの互角、今回も最後までもつれあいそうだ。

2連勝12度目の優勝を狙う大崎は近森、飯田、GK下里のオリンピックトリオと東、荒井の両全日本選手らの個人技をかみあわせたチームプレーで自信にあふれている。

佐藤、谷口、林らのほか左右両手を使いわける新人・坂口（水俣工）の巧技もNHK杯（6月、大阪）で充分通用することを示した。

湧永は、オリンピック代表の木野、早川が抜群の展開力を誇り、この二人を軸に森、高橋、戸田、藤井、市原、GK今井らがソツのない攻守を示す。

いずれも個性的な選手でテクニックでは大崎に劣らぬが、今シーズンに入って木野、早川がほとんど全日本の合宿のため欠けており組織攻撃に不安がなくもない。

両チームとも相手のキー・プレイヤーである近森、木野の動きをマークしあうだろうから、勝敗のカギは他の選手のプレーにかかってくると思う。あえて占えば層の厚さ、スタミナで大崎が僅かに有利ではなかろうか。

3者同率の公算も

この両者に大同がどうからむか興味深い。

野田、中井（ともにオリンピック代表）藤中（全日本）、松原、加藤、小沢、GK柳川兄という布陣は最上位に躍り出てもおかしくない顔ぶれである。

昨年は惜しいところで優勝を逸し地元ファンの声援に応えられなかっただけに、今年にかける意気ごみはすごい。

野田、藤中の巧技に加え中井、松原がすっかりたくましくなっており、戦力は大巾にアップしている。予選リーグの相手は、今の大同にとって比較的戦い易いだけに決勝リーグへ力を温存できる利もある。大崎、湧永の手の内は充分承知だけに初優勝も夢ではない。

大崎、大同、湧永三者の実力に決定的な差はなく、互いに星をつぶし合って同率から〝1点〟が微妙な作用をすることも充分に考えられる。

ダークホース・本田技研

ダークホースはB組の二番手よりも本田技研（三重）。

左腕・新実（オリンピック代表）、佐藤（全日本）、林の若手トリオを柱に、末岡、勝田、星野らの巧者を配した攻撃陣は一流だ。GK戸田の堅守も定評があり試合運びに粘りがでてくれば大崎、湧永も油断はできない。

大同を追うB組の2位争いは順当なら前年4位の三景（東京）だが攻守にバランスのとれた住友化学菊本（愛媛）やトーナメント優勝（6月・岐阜＝本誌99号所報）の大山商会（大阪）も侮りがたい。特に土田、橋本らを中心とした大山のまとまりに注目したい。

大江（全日本）を加えた三菱レイヨン大竹（広島）は、トーナメントで準優勝するなど好調にみえたが中国選手権（7月）あたりから調子が落ち、国体予選でも敗退してしまっている。この大会も強豪にはさまれ苦しいがなんとか上位進出への足がかりをつかみたいところ。

オリンピック後、斯界の目標は49年2月の世界選手権。早ければこの大会から選手選考が始るとも伝えられるだけにトップゾーンにふさわしい内容を望みたい。

日　程

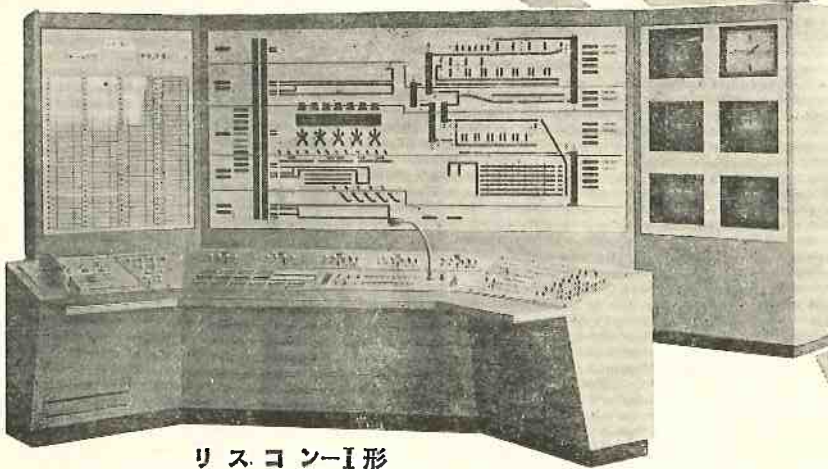
▽第1日（9月27日）
予選リーグ
(A)湧永薬品×三菱レ
大崎電気×本田技研
(B)三景×大山商会
大同製鋼×住化菊本

▽第2日（9月28日）
(A)大崎電気×三菱レ
本田技研×湧永薬品
(B)住化菊本×三景
大山商会×大同製鋼

▽第3日（9月29日）
(A)三菱レ×本田技研
湧永薬品×大崎電気
(B)住化菊本×大山商会
大同製鋼×三景

▽第4日（9月30日）
5位決定リーグ2試合
決勝リーグ2試合

▽第5日（10月1日）
5位決定リーグ2試合
決勝リーグ2試合

※試合順は不同

Osaki
営業品目
普通電力量計
精密電力量計
誘導形自動電圧調整器
静止形自動電圧調整器
配電線事故捜査器
需要電力量遠隔測定装置
電力需給用計器用変成器
電流制限器
配線用しゃ断器
配電盤・分電盤・制御器
試験用変圧器
各種開閉器・しゃ断器
数字式テレメーター・データロガー
標準用計器用変成器
リスコンーI形
大崎電氣工業株式會社
本社及び五反田工場 141 東京都品川区東五反田2の2の7 電話 (03)443−7171(大代表)
電信略号 シナガワ」デンキ
蒲田工場 144 東京都大田区多摩川2の8の1 電話 (03)759−6511(代表)
埼玉工場 354 埼玉県入間郡三芳町藤久保58 電話 (0492)58−1205(代表)

大阪イーグルス2連勝

第15回全日本教職員選手権は8月17日から20日までの4日間，千葉県佐原市に36チームが参加して行われ大阪イーグルスが2連勝8度目の優勝を飾った。

全日本教職員選手権

山口、沖縄ともに敗る

▽1回戦（4試合）

長野教員 14（9 5／5 7）12 沖縄教員

岡山教員 28（12 16／10 7）17 群馬教員

大阪教員ク 19（12 7／8 10）18 山口県教員団

鹿児島教員団 28（10 18／12 6）18 秋田教員団

〇……長野×沖縄は劣勢の長野が後半一気に追いあげて4分同点、さらに青木の活躍で逆転して主導権を握った。大阪×山口は山口が好調に滑り出し後半5分には14－8と勝負を決めたかにみえた。粘る大阪は坂口を中心にじわじわ盛り返し23分タイ(17－17)、26分7MTで再びリードされたがすぐに返し、タイムアップ寸前の速攻を坂口が決めて鮮やかな逆転勝ちを演じた。

岡山の善戦実らず

▽2回戦

岩手教員ク 27（13 4／11 6）17 三重教員団

東京スターズ 35（21 14／10 5）15 滋賀教員

茨城教員 25（13 12／8 5）13 愛知教員

広島県教職員 21（11 10／7 8）15 ストーク兵庫

北海道教員団 40（25 15／4 6）10 秋田高専職員

岐阜教員 20（12 8／7 4）11 熊本教員団

大阪イーグルス 42（26 16／3 3）6 長野教員

埼玉教員ク 22（11 11／9 10）19 岡山教員

オールドイーグルス（大阪）17（8 9／7 9）16 栃木教員

千葉教員 34（20 14／5 4）9 新潟教員

神奈川教員団 24（13 11／6 8）14 愛教ク（愛知）

静岡教員団 29（14 15／6 4）10 愛媛教員団

福岡教員ク 15（8 7／7 6）13 山梨教員

和歌山教員ク 20（8 12／6 7）13 福井教員

東京教員 20（10 10／10 9）19 大阪教員ク

スワロー兵庫 19（10 9／4 6）10 鹿児島教員団

〇……岡山が埼玉に善戦した。前半は埼玉が15分以降先手をとって押し気味、その優位を後半10分までキープした。岡山は後半14、15分船越の連続得点で15－14と逆転いったん追い抜かれたものの21分には18－16と再びリードを奪った。しかしベテラン揃いの埼玉は7MTなどでタイとしたあと結城、北井らがたたみかけ逆転、岡山の攻撃を28分の1点だけに抑えて辛勝した。

〇……注目のスワロー兵庫×鹿児島は立ちあがり半速攻から確実に得点をあげたスワローが15分5－1と開く先制攻撃に成功、鹿児島は実力を出し切れぬまま押し切られてしまった。

東京教員×大阪教員は10度、オールド・イーグルス×栃木は9度タイスコアという接戦、最後はベテランの味が活きた。

このほか福岡×山梨が好試合。リードされた山梨は後半なかば連続得点で勝負を終盤にかけたが、福岡は高本、松尾で主導権をはなさず、最後を三友がしめくくった。久々の〝単独〟チーム秋田高専職員は北海道に善戦及ばなかった。

スワロー抽せん勝ち

静岡、福岡を降す

▽3回戦

大阪イーグルス 27（15 12／9 3）12 岩手教員ク

東京スターズ 17（8 9／6 4）10 茨城教員

広島教職員 17（9 10／5 5）10 北海道教員団

埼玉教員ク 15（8 7／5 4）9 岐阜教員

オールドイーグルス 25（12 13／12 4）16 東京教員

千葉教員 18（13 5／5 4）9 神奈川教員団

静岡教員団 17（5 12／7 8）15 福岡教員ク

スワロー兵庫 16（1 0 ： 10 5／0 1 ： 9 6）16 和歌山教員ク　引き分け

抽せんでスワロー兵庫の勝ち

〇…スワロー×和歌山が好試合。スワローは前半15分までに得点をつみ重ね6－2としたのだが、そのあと後半5分まで無得点。この間に和歌山はじっくりポイント後半9分8－8と振り出しへ戻った。10分すぎからスワローは再び先行したが、和歌山は24分12－13から25分吉田、26分串野のゲットでこの試合初めてリード、そのままの勢いで逃げこむかにみえた。しかしスワローは28分浜野で14－14、29分4秒中村の巧技で15－14と逆転、誰の目にも「勝負あった」とみえた。ところが和歌山の驚異的な粘りは29分45秒市瀬のゲットに実り延長へもつれこんだ。

〇……延長の先手は和歌山。前半4分塩崎があげた。苦しみぬいたスワローは後半4分20秒中村が起死回生の一打を決めてで終了。抽せんから勝利を呼びこんだ。

〇……静岡×福岡は両チームとも動きが速くなかなか見応えがあった。

静岡は前半13分3－5から寺田の3ゴールで逆転、がっちり主導権を握っていちぢは6点差をつけた。

地元の期待を集める千葉は神奈川を相手に立ちあがりボールが廻らず、17分間で7MTの1点だけという〝貧攻〟だったが、後半は岩下、稲生、佐藤らが相手の守りを切り崩した。このほか広島が地味な試合運びながらチャンスを巧く活かしベストエイトに勝ちあがり注目された。

埼玉、広島を振り切る

千葉、ベストフォアに

▽準々決勝

大阪イーグルス 28（14 14／4 2）6 東京スターズ

	【東京】	得	【大阪】	得
GK	梁川	0	広川	0
FP	藤原	1	高橋	5
	高野	1	井上	2
	小山	1	足羽	2
	浅野	3	福井	4
	渡辺	0	樫塚	5
	水上	0	河原崎	3
			市田	4
			池本	3
			安達	0

（審・宍戸・板橋）

28（1）7MT（0）6

〇……東京はGK綿貫が欠場したほかギリギリの陣容、勝負は試合前からはっきりしていた。

東京が互角だったのは前半8分

2—1まで。大阪はそのあと連続13ゴールして大勢を決めた。

埼玉教員 20（9—7、11—2）9 広島教職員

得	【埼玉】		【広島】	得
0	高橋	GK	古居	0
0	細野	GK	東	0
4	河住	FP	磯道	4
5	高田	FP	山高	0
6	高戸	FP	入江	1
1	北井	FP	中本	2
0	中島	FP	宮田	0
3	結城	FP	渡辺	1
1	斉藤	FP	江藤	1
0	上久保	FP	中岡	0
0	金子	FP		

（審・斉藤、山内）

20（2）7MT（0）9

○……広島は磯道の好シュートで先行したが、埼玉は13分4—4、20分には7—5と逆にリードした。しかし広島も21、22分にポイントして7—7。

地力に優る埼玉はあわてることなく前半終了間ぎわ高戸が2点を加え、さらに後半も10分までに7MT（高田）をはさんで高戸が3点をあげる活躍を見せ、広島を押し切った。

千葉教員 22（8—4、14—7）11 オールドイーグルス

得	【千葉】		【Old】	得
0	吉田	GK	島崎	0
3	笠原	GK	東	5
0	中島	FP	藤井	0
8	松	FP	田中	0
2	八尋	FP	青木	3
3	稲生	FP	北岡	0
2	佐藤	FP	奥浜	0
3	岩下	FP	木村	2
0	林	FP	山崎	1
1	桶口	FP	望月	0
0	河村	FP	山本	0

（審・小西、藤本）

22（1）7MT（2）11

○……巧妙な個人技を柱としたオールドイーグルスも若い千葉の脚力には時間とともに振り切られる場面が多くなり、最後は大差がついた。それでもオールド・イーグルスは前、後半ともに立ちあがりは千葉をしのぐ動きをみせ、特に後半6分8—10と追いこんだあたりは鮮かだった。千葉では松の鋭いシュートが目立った。

スワロー兵庫 22（11—8、11—8）16 静岡教員団

得	【兵庫】		【静岡】	得
0	上野	GK	山口	0
0	北山	FP	野口	1
3	大原	FP	寺田	7
3	浜野	FP	井上	2
4	井上	FP	竹内	3
3	畑	FP	藤原	2
3	木野	FP	原	0
1	藤崎	FP	望月	0
2	黒田	FP	入山	1
3	中村	FP		

（審・氷山、鈴木）

22（2）7MT（0）16

○……スワローは速攻、静岡は遅攻で試合を進めた。前半なかばのチャンスを活かしたスワローが優位に立ったが、静岡も後半に入るやスパート、寺田、井上、野口らで10分12—12とした。

しかしスワローは10分以後再びスピードプレーがまとまり11分畑のゲットを口火に矢次早に得点を重ね22分には19—13と勝負の行方を決めた。スワローの走り勝ちだった。

千葉、シュートミスひびく

▽準決勝

スワロー兵庫 19（8—8、11—6）14 千葉教員

得	【兵庫】		【千葉】	得
0	上野	GK	吉田	0
2	北山	FP	笠原	3
0	大原	FP	中島	0
1	浜野	FP	松	3
3	井上	FP	八尋	
6	畑	FP	稲生	1
4	木野	FP	佐藤	2
0	藤崎	FP	岩下	4
1	黒田	FP	林	1
2	中村	FP	樋口	0
		FP	河村	0

（審・柳井、日野）

19（2）7MT（2）14

○……千葉は脚力もありパスワークもよかったが、肝心のシュートに気負いがみられミスが多かった。ベテランを要所に配したスワローは自分のペースで試合を進め前半終了まぎわ同点にされたものの後半開始とともに多彩な攻撃で一気に差を拡げた。

千葉はオフェンスにもう一工夫欲しく自信のある7mスロアーを育てる必要もあるだろう。

（斉藤和夫）

埼玉、攻撃力で一歩ゆずる

大阪イーグルス 24（12—5、12—10）15 埼玉教員

得	【大阪】		【埼玉】	得
0	広川	GK	高橋	0
4	樫塚	FP	河住	5
4	福井	FP	北井	2
2	足羽	FP	結城	3
2	井上	FP	高田	3
5	高橋	FP	中島	1
3	河原崎	FP	高戸	1
2	池本	FP	上久保	0
2	市田	FP	金子	0
0	安達	FP	斉藤	0
		FP	細野	0

（審・宍戸、板橋）

24（1）7・T（1）15

○……ライバル同士の一戦にふさわしく緊迫した立ちあがりだったが、15分をすぎる頃から次第に大阪のペースとなり、埼玉は散発的に得点するだけとなった。

後半に入っても大阪が主導権を握り、埼玉は15分すぎから反撃したものの25分13—21としたのが精いっぱい。大阪の安定した攻撃力が目立つ一戦であった。

（田村幸雄）

千葉、埼玉破り3位

▽3位決定戦

千葉教員 16（10—7、6—4）15 埼玉教員

○……強風の悪コンディション。埼玉は脚力の劣えをカバーするためか、風上に立ちながらセットプレーに徹し、左右のゆさぶり、中央のカットインプレー、ポストプレーなどを有効に使い分けた。

一方の千葉は持ち前の脚力を活用するチャンスをなかなかつかめず、相手のパスミスから速攻で得点するだけという単調に終始した。

勝敗はともかく〝全国〟の壁を破るにはチームプレーを一日も早く確立することが望まれよう。

（遠藤健次）

スワロー、再三のリード空し

▽決勝

大阪イーグルス 20（8—9、12—10）19 スワロー兵庫

得	【大阪】		【兵庫】	得
0	広川	GK	上野	0
6	高橋	FP	木野	2
2	井上	FP	畑	1
4	池本	FP	井上	4
3	福井	FP	浜野	0
2	樫塚	FP	中村	4
3	河原崎	FP	大原	1
0	市田	FP	北山	3
0	足羽	FP	黒田	4
0	安達	FP	藤崎	0

（審・小西、藤本）

20（0）7MT（0）19

中大付属、韓国で星分く

第7回日韓高校ハンドボール（第5回日韓高校交歓スポーツ大会）は8月20日から韓国の首都ソウルに全日本高校選手権男子優勝の中大付属高（東京）が遠征して2試合が行われ1勝1敗だった。

通算成績は日本側の22戦8勝12敗2引分。

この遠征に日本協会から嶋田新太郎常務理事が同行した。

◇

第1戦は8月20日午後2時からソウル・奨忠体育館で韓国高校選手権1位高麗商と行われた

審判＝金栄佑、李峰一

高麗商12 {6―4, 6―7} 11中大付属

得	【中大】		【高麗】	得
0	松下	GK	張福煥	0
0	西川	GK	韓建緒	0
8	蒲生	FP	金晩秋	5
1	佐藤	FP	許 湜	0
0	大林	FP	李昌律	0
1	竹内	FP	張晟渟	4
0	安	FP	朴裁季	0
1	坪子	FP	文鍾成	0
0	森	FP	朴光運	0
0	浦野	FP	李寛憲	0
0	林	FP	李凰翰	3
0	石川	FP		
11	（1）	7・T	（2）	12

○……たえず先手をとっていた高麗商が押し気味に試合を進めた。中大付は後半エース蒲生の好プレーなどで18分8―8の同点に追いつき互角の戦況へ戻した。その後は互いに決定的なリードを奪えず引き分けかと思われたが、11―11のあと高麗は24分25秒張晟渟が決勝のゴールを決めそのまま逃げこんだ。

中大付、第2戦は快勝

第2戦（最終戦）は21日午後4時20分から奨忠体育館で韓国高校選手権2位清涼工と行われた

審判＝李時黙、金昌勲

中大付属16 {8―5, 8―6} 11清涼工

得	【中大】		【清涼】	得
0	松下	GK	金一源	0
0	西川	GK	禹鍾哲	0
4	蒲生	FP	宋煥官	0
1	佐藤	FP	沈潤泰	0
7	大林	FP	金根用	0
0	竹内	FP	朴東明	4
1	安	FP	金永禹	4
3	坪子	FP	鄭亨均	3
0	森	FP	金明均	0
0	浦野	FP	李容吉	0
0	林	FP	韓国柱	0
0	石川	FP	張勉浩	0
16	（2）	7MT	（3）	11

○……中大付は立ちあがり大林坪子の活躍で20分6―2とリードして試合の主導権を握った。守っても蒲生を中心としたディフェンスが清涼工のたびたび試みるスカイプレーを封じ、後半もそのままのペースで17分には16―7と勝負を決めた。清涼は終盤たてつづけに得た3本の7MTなどで追いこんだが大勢をくつがえすまでにはいたらなかった。

日韓高校交流

川上整司中大付監督の話 韓国勢の実力は去年（注・東亜高が来日）よりも低いと思う。スカイプレーと変則的なセットだけで技術・戦法が行きづまっている感じだ。個人的にも去年の金成憲、車聖福（ともに東亜高、アジア予選代表）のような抜群の選手は見当らなかった。我々は2試合とも勝てると思ったのだが、第1戦はやはり審判法とコートの狭さ（34m×18m）にとまどった。狭いコートを想定した練習をして行ったのですが……。

2日間とも会場は満員で熱狂的な応援は話に聞いていた以上のすさまじさだった。韓国では小学校の間でハンドボールが急速に普及しているようで、ユニホーム姿の小学生が熱心に試合を観戦していたのが印象に残った。

日韓審判会議実現へ

日本協会は7月22日の月例常務理事会で日韓両国の合同審判会議を早急に開き、判定解釈の統一をはかることを決めた。同会議は今秋、東京で行われる公算が強い。

○……去年の決勝と同カード。手の内を十二分に知った両チームである。立ちあがりから15分は互いにさぐりあい、イーグルスが10分から10分間に3点をあげリードを奪った。スワローも21、22分木野の連続得点で追いこみ25分6―7から26分黒田、28分北山29分井上とポイントを奪い逆に2点をリードした。イーグルスはハーフタイム寸前高橋の得点で1点差。

○……後半も、しばらくスワローの優勢がつづき5分11―10、10分12―11。

ここで風上に位置したイーグルスは一気に速攻を仕掛け11分高橋で同点（12―12）としたあと福井、池本らが好シュートを決め、20分には18―14とスコアを変えた。

逆転されたスワローは22分から攻撃が立ちなおり中村らの巧技で連続3ゴールで17―18まで追いあげたが、イーグルスは24分高橋、28分には池本がダメを押し20―17。スワロー必死の反撃もとどかず終了した。

後半10分から10分間における7―1というスコアがすべてを決めたといえる。

（高橋　潔）

群馬、敗者戦で勝つ

▼1・2回戦敗者によるコンソレーショントーナメント（佐原市長杯）

▽1回戦　愛知教員26―15秋田教員、愛教ク21―15滋賀、熊本23―8愛媛、栃木18―12ストーク兵庫、山口25―12秋田高専職員、山梨14―12福井、群馬23―11新潟

▽2回戦　愛知教員8―5愛教ク、栃木14―5熊本、沖縄16―12山口、群馬16―8山梨

▽3回戦　栃木15―12愛知、群馬23―11沖縄

▽4回戦（＝決勝）

群馬教員16 {9―6, 7―6} 12栃木教員

ベストセブン　全日本教職員連盟は大会終了後、今年度のベストセブンを次のように決めた。

▽GK　大村久（山梨・全日本）、

▽FP　笠原利宏（千葉）、北山隆（スワロー兵庫）、北井晴次（埼玉）、斉藤光男（群馬・全日本）、福井稔、樫塚正一（ともに大阪イーグルス）

歴代優勝チーム

回	優勝チーム
①昭33	茨城教員ク
②	東京教員団
③	神戸ストーク
④昭36	（休会）
⑤	大阪教員ク
⑥	大阪教員団
⑦	大阪イーグルス
⑧	大阪イーグルス
⑨	大阪イーグルス
⑩	大阪イーグルス
⑪	埼玉教員ク
⑫	東京教員
⑬	埼玉教員ク
⑭	大阪イーグルス
⑮	大阪イーグルス

ＩＨＦ大きく改組
迫られる国内体制の整備
―ＩＨＦ総会の提案から―

第14回国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）総会＝渡辺副会長、河内海外駐在代表出席＝が8月23日からニュウルンベルグ（西ドイツ）のマイスターシンガホールで開かれている。

もっとも注目されていた中国問題は予めＩ・Ｈ・Ｆから送付された議題にない。

今回のＩＨＦ総会での、もっとも大きな議題はＩＨＦの機構改革の問題である。ＩＨＦはヨーロッパを中心に運営されていることに対して、現在では、その他の大陸に多くの加盟国をもっており、ヨーロッパのハンドボールから世界のハンドボールへの本当の意味の脱皮を迫られていること、もう一つは従来の競技委員会にすべての競技面の機能が集中しすぎ、そのどれもが十分に機能できなくなってきている。

そこで第一の問題を解決するために地域連盟の創設と大陸別の理事を選出することが提案され、ゆくゆくはヨーロッパカップと同様の大会を各地域でもてる形にもっていきたいという提案になった。

これは日韓の共同提案だけでなく、ユーゴ、ルーマニアなども同様の趣旨の提案をしており、ＩＨＦ執行部の提案として提出されている。

この提案はおそらく可決されるであろう。これが成立した暁にはアジア連盟は全く新しい局面を迎えることになろう。従来の懸案であった日韓の動きに加えて、クウエートが全く独自の見解で「アジアの結束」を訴えているし、アジア連盟の問題は益々複雑な様相を呈しよう。またイスラエルは7月末に日本協会に同国の「ヨーロッパ復帰」に力を借してほしいとの公電をよせており、アジアに執着のないことは明らかである。

中国がどういう形になるかは現在全く判らないが、アジアという地域、その極東と極西でハンドボールが行なわれている現状では、たとえアジア連盟が創立されたとしても、その前途にはきわめて大きな難問が山積している。

第二の問題点、競技委員会の機能の分化は、審判規則委員会、組織委員会、技術研究委員会の三本柱を設けることによって解決をはかる方向で改組するように提案されている。

審判規則委員会はルールと審判に関する全てを取り扱う。

技術研究委員会はコーチシンポジウムを主催し、ハンドボールの技術、戦術に関しての研究を行なう。

組織委員会は世界選手権、大陸選手権などの各種大会を開催するように日程その他を調整し、決定する。

この三つが競技委員会を構成することになる。

このほかにハンドボールをより普及させるための広報委員会、ドーピングコントロール、セックスチェックなどを行なう専門家よりなる医事委員会が設けられることになろう。

これらの改組によって、理事会と評議会（従来の常務理事会）の構成が変動する。

理事会は従来13人の構成であったのが、今回の提案では、会長、第一・第二副会長、理事長、会計理事、審判規則委員長、組織委員長、技術委員長、アジア・アフリカ・アメリカ代表理事、その他4名の理事（このうち、医事と広報担当各1、会計と庶務担当各1）の15名からなることになっている。

また評議会は会長、第一・第二副会長、理事長、会計理事、競技委員長のなかの一人（組織、審判規則、技術研究の各委員長のなかから一人）の6名からなることになる。アジア代表理事には日本の渡辺和美副会長が指名される可能性が濃い。

この改組が成立し、スムーズに事が運営されるようになれば、かなり円滑に進もうか、理事会をどのようにして開催するかについてなどいくつかの難題がでてこよう。各大陸の代表理事がでても、実際の運営に発言できなければただ選出されただけにおわってしまう。

この辺をどう解決していくかが大きな問題となるであろう。

また従来2年であった役員の任期が4年にしたいとの提案があるのも注目してよいことであろう。

以上は各国提案をもとにしてＩＨＦ執行部が提案しているものであり、この他、各国協会が種々のものについて提案をしている。

規約の改正

公用語に英、西、露を加えよ（ソ連）、国際試合の優勝者に国歌吹奏を、一〜三位までの国旗掲揚を（ソ連、チェコ）。

ＩＨＦの競技委員会提案として

世界選手権規定の改正

オリンピックのベストエイトには次回の世界選手権への予選なしでの参加資格を与えるという注目すべき提案もある。またオーストリーが、世界選手権のグループ制（Ａグループ16、Ｂグループ8、Ｃグループ8、Ａグループの下位

2チームとBグループの上位2チーム、Bグループの最下位とCグループの最上位が入れかわる）を提案している。今日の制度では、ハンドボールの発展途上国は上位への道をとざされたまま世界選手権を見ることもない。これによって大きな飛躍が望めるという理由による。

ルールについて

この中でもっとも多いのが退場失格、追放に関する提案である。追放はきつすぎて、審判が決定を渋る場合が多いし、チームを6名にするのは問題があるので失格にしてはという意見が強く各国から提案されている。またバスケット同様に5回なら5回の対人動作に於ける反則で、コートに出られないようにする（ユーゴ）、前後半に一度ずつ、任意の時に1分間の作戦タイムをとる。これは自分のチームがボールをもっている時にとれるようにする（ポーランド）。攻撃の45秒ルールの制定、バスケット同様に攻撃に入った時から45秒以内に攻撃を終了しない場合には相手方のフリースローとする（ソ連）。スローインをフリースローと同様に行なうようにする（ユーゴ）守備側の不正交代を厳しくとるようにする（ユーゴ他数国）。

49年2月東ドイツで
次回の世界男子選手権

また今回の総会で今後のIHF関係の諸行事の日程が決定されるが、第8回男子7人制ハンドボール選手権大会は1974年2月28日から11日間、ドイツ民主主義共和国（東ドイツ）で開催されることが確定的となっている。

女子の世界選手権は1973年11月に開催の予定だが場所は未定来夏の国際審判会議はチェコが立候補している。

その他1974年の総会の場所が決定されることになろう。

オリンピックの蔭に隠れて、あまり表だってはいないが、今後のハンドボール界にとって、きわめて重要な提案が数多く提出されている。

事務所も理事長所在地から、理事会の決定した所に変更になっていて、これにはデンマークが立候補している。

地域連盟の問題一つとったにしても、アジアの場合、我国がかなり重要な立場を占めていることは明らかである。日本ハンドボール協会とともにアジアでの活動でも重要な役割が期待されることになろう。

総会あけには、種々の面で国内体制を整備する必要に迫られようし、必然的に日本協会も脱皮を迫られることになろう。

（藤本　強）

★──☆ 海外トピックス ☆──★

ユーゴ、ルーマニア破る
～タシマイダン杯～

第12回ユーゴ・トロフィー男子国際大会（別称・タシマイダンカップ）は7月上旬4ケ国が参加してサラジエボで行われ、地元ユーゴがワールドチャンピオン・ルーマニアを破り3連勝、通算9度目の優勝を飾った。オリンピックD組で対戦するユーゴ×ハンガリー戦はハンガリーの急迫も及ばなかった。

この大会のベスト・セブンはGKホルバス（ハンガリー）、FPポクラヤク、ポポビク、ラザレビク（以上ユーゴ）、ガツ、グルイア（以上ルーマニア）、マロシ（ハンガリー）。

ハンガリー 19（8-13、11-5）18 ルーマニア
ユーゴ 26（13-12、13-10）22 ブルガリア
ルーマニア 23（14-7、9-7）14 ブルガリア
ユーゴ 19（7-9、12-9）18 ハンガリー
ハンガリー 22（12-4、10-11）15 ブルガリア
ユーゴ 22（10-8、12-11）19 ルーマニア

【順位】①ユーゴ②ハンガリー③ルーマニア④ブルガリア▽得点王ラブルニク（ユーゴ）、グルイヤ（ルーマニア）ともに17点

ソビエト、絶好調示す
～バルティック杯～

〝ミュンヘン〟を前に注目の第5回バルティック・カップトーナメントは7月11日から16日までソビエトのビルニウスに7ケ国8チームが参加して開かれ地元ソビエトが絶好調の試合ぶりを示し有力とみられた両ドイツ、スウェーデンなどを押しのけて優勝を遂げた

▽予選リーグ主な記録
東ドイツ 14-11 デンマーク
東ドイツ 13-11 ソビエト
ソビエト 17-10 デンマーク
ポーランド 13-12 西ドイツ
西ドイツ 12-10 スウェーデン

▽決勝リーグ
西ドイツ 12-11 東ドイツ
スウェーデン 14-13 東ドイツ
ソビエト 20-12 スウェーデン
ソビエト 12-9 西ドイツ
ソビエト×東ドイツ、西ドイツ×スウェーデン戦は予選リーグの記録を適用

【順位】①ソビエト2勝1敗（得失点差9）②西ドイツ2勝1敗（0）③東ドイツ・スウェーデン1勝2敗＝5位以下の順位⑤ソビエトB⑥デンマーク⑦ポーランド⑧フィンランド

★……読者からの海外情報提供を期待いたします。用紙自由、締切り日も特に設けません。（編集部）

☆新刊紹介

ハンドボールテキスト

日本ハンドボール協会普及部・編

斯界待望の日本協会による指導書「ハンドボールテキスト」が完成した。普及部が中心になって、多くの普及部員が各地での体験をまじえて作りあげられたものである。

本書の最大の特徴は〝いかに指導するか〟ということに最大の力点がおかれていることである。しかし、その内容は技術的にもかなりのレベルに達っすることができるように配慮されており、全国の小中高校の指導者に必携の書となろう。特にハンドボールを専門としていない指導者の人々に正しいハンドボールを教えてもらうのに良い本となろう。また大学の教養課程の体育のテキストとしても、好適であろうし、将来指導者になろうとする人々にとっても常に座右に置けば、多くヒントが得られるであろう。

全一五節からなっており、一四〇葉にわたる図が入っている。

以下、若干の内容に触れながら紹介していこう。

一節はハンドボールのあらましで、競技の概要について説明があり、テキストへの導入になっている。

二節はハンドボールのうつりかわりで、世界と日本のハンドボールのたどった歴史の概要が簡単に述べられている。

三節は学校体育としてのハンドボールで学校体育で、ハンドボールがいかに良い競技であるか、また社会体育にとっても好適な運動素材であることが述べられている

四節はハンドボールのよさとして、ハンドボールの長所が述べられる。

五節は発育段階とハンドボールで統計資料を使用しつつ、各段階に於けるハンドボールの有効性について説いている。

六節はハンドボールの普及の現状で43～46年の各県と各種別のハンドボールチーム・選手の推移が統計資料で提出されている。

七節はハンドボールと学習指導要領という本書のもっとも特徴のある節の一つで、いかに指導していくかが、中学校、高等学校の具体的なカリキュラムとして例示しつつ述べられている。

特に単元の取り扱いという項の中では、時間毎の具体的なカリキュラムが豊富な図入りで例示されているのは、現場の指導者にとって、大きな参考になるところであろう。ここが従来発行されているハンドボールの技術書と大きく異なる点であり、本書の特徴をなす点であろう。しかも、基礎になるプレーをしだいに組みたてていく過程はクラブ活動としての練習にも大きなヒントを与えることになろう。

八節はハンドボールの見方と用語で比較的多用されるハンドボールの言葉を解説しながら、ハンドボールの特性を理解しつつ見られるような配慮がなされている。

九節はハンドボールのルールと審判。ルールの概要と審判をするうえに必要な諸事項が入っている

十節はハンドボールの技術系統でハンドボールの諸技術が系統図になって示され、理解を援けるとともに十三節、十四節への導入ともなっている。

十一節はハンドボールにみちびくやさしいゲームとして、ボールを使った種々のゲームが例示されている。これも七節と次の十二節とともに本書の最大の特徴をなすものであろう。これは単にハンドボールへの導入のためだけでなくこれらのゲームを高度のものにしていけば、大学・一般チームのトレーニングにも十分使えるものであろう。

十二節はハンドボールのトレーニングでハンドボールに必要な種々の機能を高めるための運動が例示されている。これは高度のレベルのチームは高度の、初心者のチームは初心者でやはりかかさずやるべきトレーニングであろう。これも本書の大きな特色である。

十三節は基礎技術。パス、キャッチ、フットワークにはじまってシュート、ドリブルから、ブロックプレー、スカイプレー、カットプレーなどに至る高度の技術まで段階的に高めていける練習法が例示されている。また高度の技術が分解され、図示されているので、理解を援けられよう。

十四節は戦術。基本的な攻防フォーメーションとその特質が述べられている。

十五節はハンドボールの優害。競技上の優害の危険性をさけるための指導法について述べてある。

以上のように多くの項目がもりこまれているが、七、十一、十二、十三節にある〝いかに指導するか〟という点で、本書は正に画期的な「ハンドボール」の本といえよう。

（定価三百円、申しこみはなるべくまとめて日本ハンドボール協会まで。一般の書店では販売していません）

第10回全国スポーツ少年団大会

ハンドボール指導リポート

斉藤和夫
（日本協会普及部委員）

第10回全国スポーツ少年団大会（日本体協、日本スポーツ少年団本部共催）は7月26日から28日までの3日間東京で行われ、ハンドボールクラスは日本協会普及部が例年どおり担当して実施した。

受講者は55名（男43、女子12）でこのうち経験者は男子5、女子3名であった。

指導体形は男子団員を平等に4班に分け、女子を1班とした。

全国から一三一九名の参加リーダーを集め、少年団創設10周年記念と銘打って、ぎっしりつまったスケジュールに従って、(1)基本となる練習や指導の方法、(2)その審判法、(3)ゲームの仕方、(4)交歓競技等を学習、今後の生活を豊かにする事を念頭として期待と興味を持った生徒に「ハンドボール」のよさを充分知ってもらった。

第1日。青少年総合センターよりバスで駒沢第1球技場につく。コートはまだ出来て居ない。コート作りの指導、コートの名称及びゲームの内容等を説明する。得意気な顔、不安な顔、そして人と人との間から上目づかいにちらちら見る生徒等。昨年の第9回もそうであった様に本当に可愛らしく思った。これからの練習やその方法ゲーム等の方向づけをし、日程に従って、モチベイションエクササイズからボール遊びにと入る。何かまだ友達同志が打とけて居ない様だ。ボール遊びで上手な進行に彼等の気持がむき出しになって来た。我々はしめたと思った。ここから冗談等もとび出し始めた。ハンドボールの話の時、ミェンヘンオリンピックに日本のハンドボールチームが参加するのを知っているか？どうか尋ねた所、知らない者が7名も居た事はおどろいた事であった。少なくても全国より各県1名〜2名選ばれて来ているのにオリンピックへの参加を知らない。55人中7名とすると日本全国では何名になるであろうか。

団員は熱心で一言半句ものがすまいとする態度を反映して、その吸収能力は目をみはるばかり。我々がやって見せると次の場面には出て来ると言った具合である。第1日の最後にゲームを行ったのであるが、これが未経験であった集団であり各地から集まった者達であろうかと思う程であった。

第2日は午前中は総合センター内の体育館でスポーツテストその他の学習活動に当てられ、午後1時より駒沢でモチベイションエクササイズ。たくみに入れられた柔軟体操より個人、集団の技術練習へと進んだが第1日と異なり打とけたムードで、所々に少年らしい冗談をまぜて思い切ったプレーが見られ、ポストプレー、ブロックプレーもすぐ消化し最後に行った班別リーグ戦に出て来た程である。

第3日はなれたもので自分からボールを持ちコートをならしネットをかけ、キャッチボール、シュート練習に余念がない。自分でボールが自由に扱える様になりゲームの大要も知り、どんな練習をしたら良いか解ったのであろう。我々は、しばらくは彼等が何をするか見て居た。我々の指導は無駄ではなかったなあと目を合わせる一時であった。従ってゲームも本当に白熱化したものであり、実際ここに居ない人にどの様に説明したら信じてもらう事が出来るか考えてしまう状態であった。最後に3日間の反省を書いてもらったが仲々面白いもの、そして、ハンドボールを知らなかった事、やって見たらこんなスポーツを捨てておけないとか、種々と出て来たが3日間の日程を無事終了した。この成果は何時の日か具現される事を願うものである。

休けい時間や昼食時等、出来るだけ多くのチャンスに疲れの見え始めた少年達のそして、団員同志の心をほぐして我々とも自由に話す事が出来る状態にしようと、若い力、山ぞくの唄、シャロム等々大声でうたい気持を引きたてながら、……こんなにも早くハンドボールになじんで呉れた少年達を前に感無量でした。駒沢第1球技場より総合センターにつく、オラッチの村じゃよ……と言った方言丸出しで我々に話をしかけ、ぐるりととりまかれ、ついでサイン攻めシャツ、手ぬぐい、ありとあらゆるものにサインさせられた。背中に大きく、ハンドボールで又逢おう、年月日と我々の名前をかいたシャツをきて堂々とセンター内を歩いている。

これはどんな事を意味しているのであろうか。一人書き終ると、又一人、又一人と我々は書きまくった。14分団あるスポーツ活動の最後の日の今日、どの分団の少年が背中にハンドボールと言った種目を大書して食堂の中でも平気で

着て歩いている者があったか。何故彼等は〝俺は3日間ハンドボールをやったんだぞ〟〝オラッチはハンドボール少年団だ〟と得意に歩ける自信はどこから生れ、どの様に育って行くか。我々はこの感激を正しく育だてて行く義務と、地方にある指導者養成の急務と同時に、少年達がこんなに喜々としほこりとし、自信として生活のささえにもなろうとするハンドボールを何とかして全国の少年達に広める事こそ我々ハンドボールマンの義務ではなかろうか。我々はこれで良いのか。と自問自答する次第である。

◇

ハンドボール界における少年団活動はきわめて遅れている。いちちは他のスポーツにさきがけて具体案を打ち出したこともあるのだがなんとも残念な現状である。毎夏の全国大会に参加してリーダーたちと話し合っていると競技そのものへの認識が低いことを痛感する。年少対策などという部分的な問題ではなく、あらゆる階層にハンドボールを知ってもらう努力が急務だと思う。オリンピック参加による反応が来年度のこの大会にどうあらわれるか一つの興味と云えなくはない。

指導プログラム

▽第1日（7月26日）9時～12時・13時～16時
- コートづくり
- モチベーションエクサイズ（渡辺慶寿）
- ボール遊び（大西武三）
- ハンドボールの話（斉藤和夫）
- 基本技術練習

（昼食）
- 個人技術の練習
- 集団技能の練習
- 身につけた技術を使ってゲーム（班対抗）

▽第2日（27日）13時～16時
- 柔軟性加味のモチベーションEX（大西）
- 個人，集団技術の練習
- 速攻練習
- ポストプレー練習
- ブロックプレー練習
- 攻防戦
- ゲーム（班対抗）

▽第3日（28日）9時～12時・13時～16時
- 集団技能練習
- 速攻練習
- チームプレー練習
- ゲーム（班対抗）

（昼食）
- 班別策戦の指導
- ゲーム（班対抗）
- ゲーム（女子選抜対男子選抜）
- 3日間の反省

参加者感想原稿から
ハンドボール指導を受けて

山下　充弘（山形・15才）

全国スポーツ少年団大会に行くことができると判った時、僕は郷里で毎日そわそわしながら生活していました。指導者からハンドボールが君の、大会でのクラブ活動であるといわれました。

今までハンドボールというスポーツを知りませんでしたのでどんなスポーツだろう、どんな練習をするのだろう。そのことばかり気がかりで汽車にのり、心配しているうちに東京に着いた。

25日初めてハンドボールのボールにさわってみました。こんなことを書くと笑われるかも知れないけれど僕は、このしゅんかん非常に感じました。ボールはてごろだし、自由に扱かえるなと思いました。ハンドボールの練習に入りましたが僕は意外と体力がないのでやっとのおもいでみんなについていきました。

先生がたの指導でいろいろなことをやり勝負についての話などを聞き、又休けい時間などに言われたことをきくたびに何か心にひびくものがありました。3日間ハンドボールをやったけれども、なぜこんなスポーツを今まで知らなかったんだろうと思うと恥かしい気がします。故郷に帰ったら自分の友だちにハンドボールを教えて一緒にやりたいと思う。

最後にこのハンドボールは本当に楽しかった。みんなありがとう。

伊藤　直子（長崎・14才）

ハンドボールは中学1年生のときからクラブに入っていたのでどんな競技かはわかっていたが、男子との試合はとてもおもしろかった。他の人は初めてという人が多かったのに最後の日などには、みんな上手になって喜んでいる人が多かった。

それにみんな上手になるのがものすごくはやい。私なんか3年やってどうにかできるようになったのに何かくやしい感じがする。

でも仲間ができてうれしい。これからもみんなハンドボールをつづけて欲しいと思います。私はもちろんつづけるつもりでいます。

みなさん、またいつかハンドボール会場で会いましょう。

井部　隆（新潟・14才）

ハンドボールはやったことがなかったがおもしろかった。

練習も試合も本当におもしろいなあと思いました。みんな一生けん命やっているようでやる気があふれていて気持がよかった。

練習等の時、ときどき先生や友達からじょう談がでてきて楽しかった。練習の時先生から声をだせるようにしようと言われて、だそう、だそうと思ったがなかなかでないので困った。悪かったと思っている。

北大、順当勝ち

北海道学生

北海道地区大学体育大会ハンドボール競技会は7月7、8日の両日北大体育館に5校が参加してリーグ戦で行われた。

実力ナンバーワンの北大が予想どおり他のチームを寄せつけぬ試合運びで圧勝、注目の2位争いは釧路教大の速攻がさえて前回2位の室蘭工大と入れ替った。

道内球界全般のレベルアップが期待されているが、それには学生界の技術向上が急務と思われ、各校いっそうの努力が望まれよう。

なお、旭川教大がオープン参加2試合を行った。

釧路教大 22（13－3 9－8）11 小樽商大
北　大 26（13－5 13－4）9 北見工大
釧路教大 23（12－6 11－4）10 室蘭工大
北　大 20（10－8 10－6）14 小樽商大
室蘭工大 16（10－9 6－5）14 北見工大
北　大 27（16－7 11－5）12 釧路教大
小樽商大 10（5－3 5－5）8 北見工大
北　大 19（8－5 11－5）10 室蘭工大
釧路教大 19（10－5 9－4）9 北見工大
室蘭工大 16（10－8 6－6）14 小樽商大

【順位】①北大4戦全勝②釧路教大3勝1敗③室蘭工大2勝2敗④小樽商科大1勝3敗⑤北見工大4敗

▽オープン試合
旭川教大 17－14 各校混成
北見工大 17－15 旭川教大

ブロック高校

第15回　近畿高校

◇7月22～24日◇奈良市中央体育館◇参加男子22校、女子16校。

男子は大阪勢がベスト4を独占するという強味を示し、都島工が激戦を切り抜けて初優勝した。大阪代表の優勝は2年ぶり6度目。

女子も大接戦を演じ準決勝以降はすべて延長戦にもつれこんだ。決勝は第2延長の末、優劣がつかず大谷、春日丘（ともに大阪）の両校が優勝を分けあった。大谷は2年ぶり4度目、春日丘は初。

▽男子1回戦
堺　工(大)10－4東大寺(奈)
大　谷(京)6－5滝　川(兵)
明　石(兵) 没収試合 彦根工(滋)
彦根東(滋)11－9新　宮(和)
御坊商工(和)10－6奈　良(奈)
乙　訓(京)13－9桐　蔭(和)

▽同2回戦
堺　工 15－8県和歌山商(和)
高　島(滋)9－5大　谷
伏見工(京)13－8明　石
佐野工(大)12－5郡　山(奈)
武庫工(兵)14－5彦根東
大　商(大)12－4御坊商工
乙　訓 10－4八幡工(滋)
都島工(大)13－10添　上

▽同準々決勝
堺　工 18（10－4 8－3）7 高　島
佐野工 7（4－3 3－1）4 伏見工
大　商 11（7－4 4－4）8 武庫工
都島工 6（1－3 4－1）4 大　谷

▽同準決勝
堺　工 11（5－1 6－5）6 佐野工
都島工 16（11－1 5－3）4 大　商

▽同決勝
都島工 13（6－4 7－5）9 堺　工

▽女子1回戦
甲子園(兵)10－2寝屋川(大)
守山女(滋)15－1十津川(奈)
春日丘(大)10－2精　華(京)
神戸女商(兵)17－6生　駒(奈)
大　谷(大)7－2近大豊岡(兵)
添　上(奈)10－4御坊商工(和)
八幡商(滋)5－2明徳商(京)
粉　河(和)10－2高　島(滋)

▽同準々決勝
甲子園 5（2－0 3－0）0 守山女
春日丘 6（2－0 4－3）3 神戸女商
大　谷 11（7－3 4－2）5 添　上
粉　河 8（5－0 3－2）2 八幡商

▽同準決勝
春日丘 4（0－0 0－0 ： 2－4 2－0）4 甲子園
引き分け
抽せんで春日丘高の勝ち
大　谷 6（0－0 1－0 ： 3－3 2－2）5 粉　河

▽同決勝
大　谷 6（0－1 1－0 ： 1－1 1－1 ： 1－1 2－2）6 春日丘
引き分け、両校優勝。

第22回　九州高校

◇6月24、25日◇佐賀県総合運動場◇参加男子15校、女子16校

男子は小倉西（福岡）がすばらしい攻撃力で圧倒的な強味を示し初優勝、10年ぶりで福岡に栄冠をもたらした。このほか今秋の国体開催地から登場の隼人工(鹿児島)が4位へ食いこみ注目された。

女子は有力とみられた財部（鹿児島）と熊本市立が1回戦で対戦財部が1点差で勝ち、一気に決勝へ進み優勝を手にするかと見えたが、熊本女商の波にのった攻撃に

敗退、熊本女商が初優勝を決めた。
熊本代表の優勝は3年ぶり11度目のこと。

▽男子1回戦
大分東(大分) 17―16 加治木工(鹿児島)
宮崎工(宮崎) 23―11 佐賀農(佐賀)
小倉西(福岡) 11―6 鹿町工(長崎)
隼人工(長崎) 17―13 熊本(熊本)
知念(沖縄) 31―3 神埼農(佐賀)
久留米工(福岡) 15―13 日南工(宮崎)
佐世保北(長崎) 17―11 鶴崎工(大分)
▽同準々決勝
大分東 20―15 マリスト学園(熊本)
小倉西 35―10 宮崎工
隼人工 10―4 知念
佐世保北 10―6 久留米工
▽同準決勝
小倉西 20―12 大分東
佐世保北 13―12 隼人工
▽同3位決定戦
大分東 18―14 隼人工
▽同決勝
小倉西 24（13―3、11―9）12 佐世保北
▽女子1回戦
筑紫女学園(福岡) 15―6 加治木(鹿児島)
熊本女商(熊本) 20―2 嬉野商(佐賀)
佐世保商(長崎) 10―3 小林商(宮崎)
大分東(大分) 18―9 興南(沖縄)
財部(鹿児島) 8―7 熊本市立(熊本)
別府青山(大分) 8―5 佐賀女(佐賀)
島原農(長崎) 8―4 神埼農(佐賀)
明善(福岡) 5―2 泉ケ丘(宮崎)
▽同準々決勝
熊本女商 20―7 筑紫女学園
大分東 12―10 佐世保商
財部 11―7 別府青山
明善 7―6 島原農
▽同準決勝
熊本女商 13―8 大分東
財部 9―4 明善
▽同3位決定戦
大分東 8―3 明善
▽同決勝
熊本女商 11（5―3、6―4）7 財部

深谷女敗れる 全日本高校選手権女子優勝の深谷女(埼玉)は8月26日浦和で行われた国体関東予選1回戦で茨城選抜に敗れた。

大和銀行(大阪)に女子チーム発足

銀行界から初の実業団として大阪・大和銀行女子チーム＝写真＝が名乗りをあげ話題となっている。

かねてから職場スポーツに関心を寄せていた同行の取り引き先に湧永薬品があったため話が進み、15名の部員によってこのほどチームを編成した。

大半が未経験者ながら木野、早川両オリンピック選手をはじめ湧永薬品の主力から指導をうけて一日も早く全国大会出場を、と大変な張り切りよう。来春には有力選手の〝補強〟も考えられている。

大阪で女子実業団が活動するのは昭和38、39年のレナウン以来久々のこと。指南役の湧永薬品に負けぬ強チームに育って欲しいものである。

各地の記録

女子で小平OG勝つ
男子も三春台ク初優勝

第2回関東クラブ選手権は7月22、23の両日横浜・市立東高グランドに男子8、女子7チームが参加して開かれた。

男子は地元三春台クと2連勝を狙うAOK栃木の優勝争いとなり三春台クが前半10分すぎからペースを握って制勝、初優勝した。

女子は前年1位の美谷ク(埼玉・深谷女OG)が準決勝で敗退、同2位の小平OG(東京)が今年は手固い試合運びで初優勝を飾った。

なお、男女とも1回戦の敗者による競技を〝2部〟として行い、男子は松門会(東京)、女子は全神奈川クが勝った。

▽男子1回戦(＝準々決勝)
AOK栃木(栃木) 23（13―1、10―5）6 桐生ク(群馬)
新治ク(茨城) 19（8―3、11―7）10 霞会(埼玉)
日川ク(山梨) 19（8―4、11―7）11 佐原ク(千葉)
三春台ク(神奈川) 17（11―5、6―5）10 松門会(東京)
▽同準決勝
AOK栃木 20（8―4、12―2）6 新治ク
三春台ク 17（7―4、10―4）8 日川ク
▽同決勝
三春台ク 14（7―4、7―3）7 AOK栃木

得	【三春】		【栃木】	得
0	柳下	GK	小林	0
0	井上	GK	菊地	0
4	尾島	FP	田崎	0
0	楠本	FP	山田	1
2	大山	FP	黒岩	2
2	植木	FP	中野	0
0	笹本	FP	左藤	0
2	武藤	FP	小竹	0
4	斉藤	FP	新井	2
0	村嶋	FP	石塚	0
0	長谷川	FP	宮田	2
0	宮代	FP	桜井	0
14	(2)	7MT	(0)	7

(審・内田、後藤)

▽同2部(敗者戦)1回戦
桐生ク 14―13 佐原ク
松門会 21―8 霞会
▽同決勝
松門会 18（13―8、5―8）16 桐生ク
▽女子1回戦(3試合)
栃木ク(栃木) 9（5―3、4―2）5 山梨ク(山梨)
美谷ク(埼玉) 13（5―1、8―2）3 全神奈川ク
桜芳ク(茨城) 11（4―4、7―4）8 前橋ピジョンズ(群馬)
▽同準決勝
小平OG(東京) 11（5―0、6―0）0 桜芳ク
栃木ク 8（4―3、4―3）6 美谷ク
▽同決勝
小平OG 8（3―0、5―3）3 栃木ク

得	【小平】		【栃木】	得
0	川島	GK	秋間	0
0	佐藤	GK	小藤	0
0	坂田	FP	小林	0
2	堀江	FP	長島	0
0	小柴	FP	大竹	0
3	浅見	FP	永田	1
1	謝花	FP	大久保	0
1	鈴木	FP	池田	1
1	高橋	FP	飯村	1
0	石渡	FP	小川	0
0	瀬田	FP		
8	(0)	7MT	(1)	3

(審・新木、松本)

▽同2部(敗者戦)リーグ
全神奈川ク 11―9 前橋ピジョン

山梨ク　12－7　前橋ピジョン
全神奈川ク　11－5　山梨ク

長野ＵＳＹ、延長で勝つ

▼第21回長野県総合体育大会ハンドボール競技（7月・上田高）

▽一般男子準決勝
北農ク　23－15　坂城ク
長野ＵＳＹ　21－9　松門会
▽同決勝
長野ＵＳＹ　19（9－9、6－6、2－2、2－1）18　北農ク
▽同女子決勝
小諸商ク　8（3－2、5－3）5　浅間ク
▽高校男子1回戦（1試合）
坂城　19－8　佐久
▽同準決勝
北佐久農　13－12　坂城
上田　19－6　屋代
▽同決勝
上田　14（6－7、8－2）9　北佐久農
▽同女子1回戦
小諸商　16－5　上田城南
美須々ケ丘　15－1　佐久
西軍（遅抜）　14－5　北佐久野
▽同準決勝
東軍（選抜）　19－5　小諸商
西軍　17－3　美須々ケ丘
▽同決勝
西軍　12（6－3、6－5）8　東軍

三春台ク、神奈川でも快勝

▼第2回神奈川県クラブ大会（6月・平沼記念体育館）＝男子のみ

▽準々決勝
三春台ク　30－7　蒔田ク
法政工ク　25－18　川崎ク
日吉ク　棄権　歯科大ク
法政二ク　－　東ク
▽準決勝
三春台ク　20－11　法政工ク
法政二ク　25－12　日吉ク
▽決勝
三春台ク　22－10　法政二ク

名古屋市が4連勝飾る

▼第23回五大都市体育大会ハンドボール競技（7月・名古屋ブラザー工業体育館）＝男子のみ

大阪　17－10　横浜
名古屋　20－16　神戸
大阪　21－9　京都
名古屋　14－10　横浜
神戸　17－12　京都
名古屋　13－11　大阪
横浜　18－13　京都
神戸　13－8　大阪
名古屋　23－13　京都
神戸　21－9　横浜
【順位】①名古屋＝4連勝②神戸③大阪④横浜⑤京都

全倉敷、川崎製鉄制す

▼第27回岡山県体育大会一般競技（8月・真備高）

▽男子準決勝
全倉敷　27－7　九州耐火
川崎製鉄　18－15　天城ク
▽同決勝
全倉敷　18（8－7、10－7）14　川崎製鉄
▽女子決勝
真備ＯＧ　13（6－3、7－2）5　井原ＯＧ

ア大会への参加運動を

読者投書欄

明日への提言

新聞報道によると一九七八（昭53年）の第8回アジア大会の開催地はシンガポールに決まったようである。

ハンドボール界の人なら誰でも承知のとおり、ハンドボールはアジア大会の実施種目に加っていない。このあと6年間の動きによって採用の望みは生まれるかも知れないが、現状ではかなり悲観的だと思う。

そこで、せめて公開種目（デモンストレーション）でもよいからテヘラン大会（昭49）はムリとしても来るべきシンガポール大会にハンドボールが参加できるよう全国的な運動を韓国などとタイアップしてはじめることを提唱したい。

ハンドボールの本場はヨーロッパだが、機関誌などをみると国際球界の勢力はあまりにもヨーロッパ偏重である。

アジア大会採用のきっかけをつかんでアジアハンドボール界の振興を企てることは意味のあるものと信ずる。

【東京・黒川　宏・ＯＢ＝26才】

中学大会記録

▼名古屋市中学大会（7月・名古屋）参加＝男子22、女子14

▽男子準々決勝
東港　41－2　名塚
笹島　13－7　桜田
名南　10－4　明豊
前津　14－7　港北
▽同準決勝
東港　11－9　笹島
前津　6－5　名南
▽同決勝
東港　20（10－4、10－2）6　前津
東港中は初優勝
▽女子準々決勝
明豊　12－6　守山
桜田　17－5　鳴子台
笹島　19－4　港北
菊井　17－2　猪高
▽同準決勝
明豊　9－6　桜田
笹島　14－8　菊井
▽同決勝
笹島　10（6－4、4－2）6　明豊
笹島中は2連勝

編集後記

□……100号を送り出したあと多くの読者のかたからお祝いや励ましのはがきをいただきました。

底辺活動の紹介を、地味な動きに焦点をといったご注文もかなりの数でした。

本誌の使命というものを改めて考えるべき時期に来ているのは確かです。斯界の歴史を書き残すことに重点がおかれすぎているのを認めないわけにはいきません。

□……実は、小さくても光りのある活動や秀れた技術リポートは編集者として、もっともスペースをさきたいものなのですが、それには皆さんの協力・寄稿が必要なのです。

再三申しあげているように本誌は日本協会の一方通行的な機関誌でないことを編集方針にしています。あらゆるニュース、個性的な技術リポートを積極的に届けて下さい。

□……多範囲な原稿に彩られるようになれば〝球史〟は年鑑なりなんなりの刊行でカバーできるでしょう。本誌の変貌は読者の力によってはじめて遂げられるのです。

オリンピックが終って斯界を総点検すべきだ、という声があります。ＩＨＦの改革問題（24頁）もおきており、内外のハンドボール界が〝新しい点〟に立っているとも確かなようです。（Ｓ・Ｓ）

合織糸・合織混紡糸

田村紡績株式会社

社長 田 村 正 衛

四日市市東茂福町10－17
TEL 0593－65－2156（代表）
郵便番号 512

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一〇一号
昭和四十年六月七日（?）
第三種郵便物認可
昭和四十七年八月二十五日印刷
昭和四十七年九月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東[illegible]渋谷区神南一ー一ー一
電話大代表(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価二百円（年間購読料千八百円）

信頼のパス——世界をつなぐブラザー

アメリカ
カナダ
アイルランド
西ドイツ
ベルギー
イギリス
フランス
ノルウェー
オランダ
オーストリア
ギリシャ
スウェーデン
ハンガリー
スペイン
ホルトガル
イタリア
ユーゴ
フィンランド
スイス
デンマーク
ジブラルタル
アイスランド
マルタ
ソ連
ヘルー
アルゼンチン
チリー
ハラグアイ
ブラジル
ベネゼラ
メキシコ
コロンビア
ハナマ
コスタリカ
ニカラガ
ジャマイカ
ボリビア
エルサルバドル
エクアドル
グァテマラ
仏領西インド諸島
ホンジュラス
蘭領ギアナ
仏領ギアナ
ドミニカ
トリニダードトバコ
バルバドス
南アフリカ
エジプト
ガーナ
ナイジェリア
ケニア
ローデシア
マダガスカル
リビア
モーリシャス
エチオピア
コンゴ共和国
リベリア
アンゴラ
セネガル
ダホメ
ポートギニア
カナリア諸島
象牙海岸
スペイン領ギニア
トーゴ
ウガンダ
コンゴ民主共和国
仏領ソマリーランド
中央アフリカ
カメルーン
ソマリー共和国
タンザニア
琉球
台湾
香港
南ベトナム
インドネシア
フィリッピン
シンガポール
カンボジア
アフガニスタン
パキスタン
タイ
ネパール

確かなプレーが、チャンスをつくるように、確かな製品でくらしに役立ちたいと願うブラザー。
〈もとのもとから創る〉という、ガンコなまでの品質至上主義で、世界の国々から信頼されています。